

令和元・2019年度

渋谷区立松濤美術館年報

ANNUAL REPORT : THE SHOTO MUSEUM OF ART

第23号



目 次

I	施設概要	002
II	展観	004
	令和元(2019)年度	005
III	出版	040
IV	教育普及	043
	1 講演会	043
	2 美術教室	044
	3 コンサート	044
	4 ギャラリートーク	045
	5 美術館見学会&ワークショップ	045
	6 展覧会関連イベント	046
	7 建築ツアー	047
V	入館状況	048
VI	日記抄	049
VII	組織	050
VIII	利用案内	051

I 施設概要

建物概要

位 置	東京都渋谷区松濤二丁目14番14号		
建物構造	鉄筋コンクリート造		
	地下2階地上2階建		
敷地面積	1,034.57㎡		
建築面積	618.40㎡		
延床面積	2,027.18㎡		
階層別面積	塔屋	29.48㎡	
	2階	461.20㎡	
	1階	305.50㎡	
	地下1階	623.95㎡	
	地下2階	607.05㎡	
建築着工	昭和53（1978）年12月21日		
竣 工	昭和55（1980）年 5月 8日		
建築工事	株式会社 竹中工務店		
設 計	白井晟一研究所		
開 館	昭和56（1981）年10月 1日		

各室面積

〔2階〕	特別陳列室	30.00㎡
	サロンミュージーゼ	148.00㎡
	館長室	41.00㎡
	学芸員室	43.50㎡
〔1階〕	ロッカー室	11.50㎡
	ギャラリー	35.00㎡
	事務室	58.00㎡
	ロビー	64.50㎡
〔地下1階〕	陳列室	203.00㎡
	荷解室	15.50㎡
	格納室	28.50㎡
	収蔵庫	78.50㎡
	機械室	34.50㎡
	倉庫	10.00㎡
〔地下2階〕	ホール	121.00㎡
	映写室	6.50㎡
	第一制作室	37.00㎡
	第二制作室	34.50㎡
	講師控室	18.50㎡
	機械室	94.00㎡

平面図

凡例



男子トイレ



女子トイレ



多目的トイレ

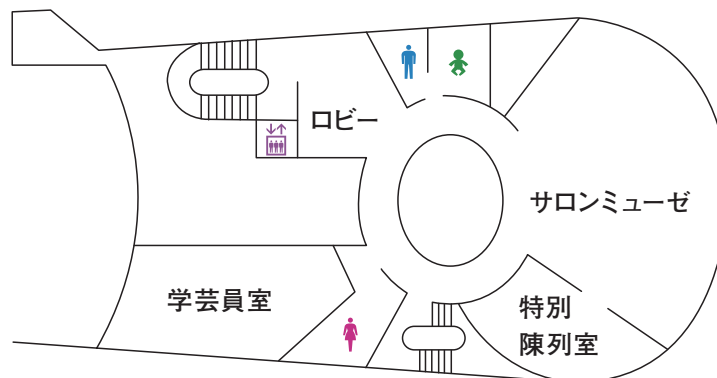


エレベータ

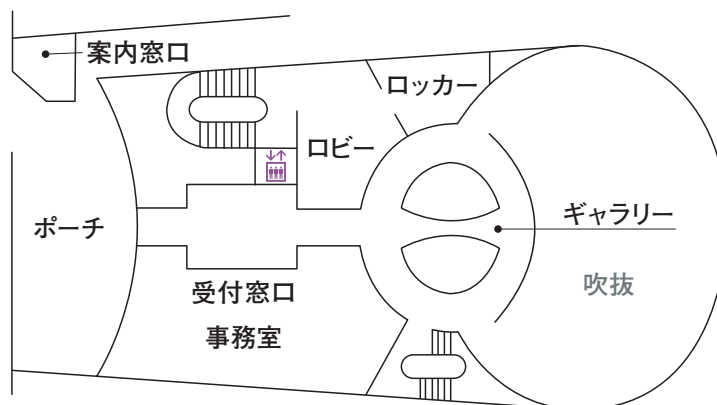


階段

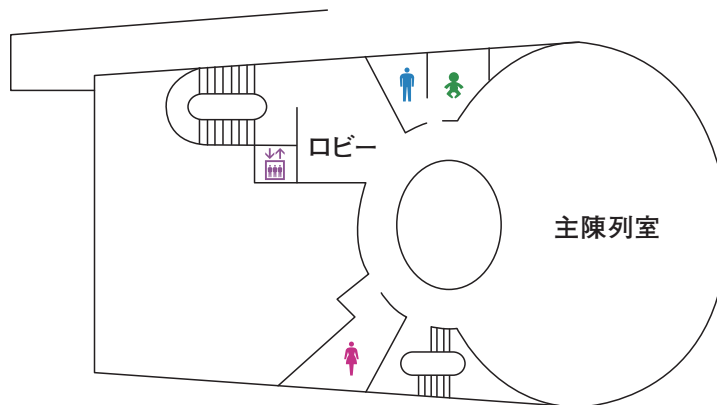
2 階



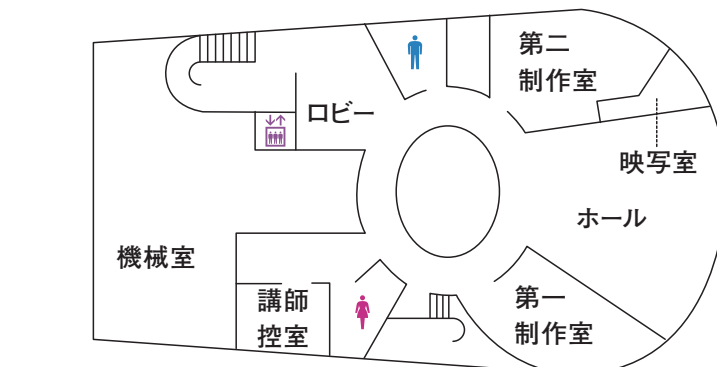
1 階



地下 1 階



地下 2 階



Ⅱ 展観

令和元(2019)年度

特別展「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」	005
特別展「華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化」	014
特別展「美ら島からの染と織－色と文様のマジック」	019
特別展「日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品」	024
特別展「パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展」	028
2020 松濤美術館公募展	036
サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」	037
第38回 渋谷区小中学生絵画展	039

特別展

女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし The Life of Japanese Women in Ukiyo-e

会期＝平成31(2019)年4月6日(土)～令和元(2019)年5月26日(日)

会場＝地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

浮世絵に描かれた女性という、一般的に「美人画」を思い浮かべることが多いと思われる。確かに、江戸時代、女性は鑑賞され、美しく描かれる対象であった。しかし、そうした彼女たちにも人生があり、生活があった。現在と異なる身分制社会のなかで、公家・武家・農民・町人・商人・遊女など、多様な階層の女性たちがそれぞれのくらしを営んでいた。

本展では、江戸時代に生きた、そうした女性の「くらし」の様相を、描かれたもの、記録されたものなどから探ったものである。女性たちが何を身にまとい、学び、どのように働き、楽しみ、そして家庭をつくったのか。10のテーマを設けて、美人画、着物、化粧道具、春画、教訓書、外国人の記録などから136件の絵画や工芸品、資料を紹介しながら概観した。

構成は次のとおり。第1会場は、「序章」で武家の女性の振袖(後期は小袖)を展示し、実際に身にまとった女性を象徴的にみせ、「第1章 階層—身分とくらし」で基本的な階級がわかる版画や史料を紹介し、「第2章 芸事—たしなむ」、「第3章 観られる女—めでる」、「第4章 着物—まとう」、「第5章 化粧—よそおう」、「第6章 娯楽—あそぶ」と、女性の暮らしを彩る内容を章別に紹介した。第2会場は、「第7章 労働—はたらく」、「第8章 結婚・出産・子育て—家族をつくる」、「第9章 教育—まなぶ」、「第10章 色恋—たのしむ」と、主に女性の生活そのものに関わる面に焦点をあてた。特に、第10章は春画を特別陳列室に展示し、18歳未満および高校生は保護者の同伴がなければ原則入室できないこととした。

本展では作品一つ一つの意味や技術面よりも、各章において作品がもつ意味を紹介することに主眼をおき、平易な一点ずつの解説を付した。さらに理解の一助となるように結髪方法や当時の史料類のパネルを適宜会場内に配置した。

会期中は、本展監修者である石上阿希氏(国際日本文化研究センター特任助教)の講演、伝統的な手品である和妻の公演、その他紋さり遊びのワークショップを実施。上記監修者のほか、山本ゆかり氏(多摩美術大学非常勤講師)、加茂瑞穂氏(日本学術振興会特別研究員)の監修協力を得た。



出品目録

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間	
序章—はじめに									
1		紫縮緬地鷹狩模様染縫振袖	絹地	1領	19世紀	身丈164.0 衿67.0	国立歴史民俗博物館	前	
2		紫紵地鷹狩模様染縫小袖	絹地	1領	19世紀	身丈164.5 衿62.0	国立歴史民俗博物館		後
第1章 階層—身分とくらし									
3	溪斎英泉	風俗土農工商	大判錦絵	三枚続	文政(1818～30)後期	35.4×73.2	千葉市美術館	通期	
4	菱川師宣	『和国百女』	墨摺大本	1冊	元禄8(1695)刊	25.7×18.0	国文学研究資料館	前	
5	西川祐信	『百人女郎品定』上之巻	墨摺大本	2冊の内	享保8(1723)	26.4×19.0	早稲田大学図書館		後
6	西川祐信	『正徳雛形』巻之一	墨摺半紙本	4冊の内	正徳3(1713)序	21.5×15.7	国際日本文化研究センター	前	
		『正徳雛形』巻之三	墨摺半紙本		正徳3(1713)序	21.5×15.7	国際日本文化研究センター		後
7	歌川豊国(二代)	今様姿 流行狂画だんまり	大判錦絵	1枚	天保(1831～45)初期	38.8×26.0	神奈川県立歴史博物館	前	
8	歌川広重(初代)	江都勝景 虎之門外之図	大判錦絵	1枚	天保6～10(1835～39)頃	24.9×36.3	東京都江戸東京博物館		後
9	玉蘭斎貞秀	農家耕作之図	大判錦絵	三枚続	弘化期(1844～48)	36.0×75.0	神奈川県立歴史博物館	前	
10	稲垣つる女	人形遣図	絹本着色	1幅	明和期(1764～72)	83.3×28.8	東京国立博物館		後
11	古山師胤	太夫と禿	紙本着色	1幅	享保(1716～36)頃	100.5×48.6	江戸文物研究所	通期	
12	西川祐信	『百人女郎品定』上之巻	墨摺大本	1冊	享保8(1723)	25.5×18.5	早稲田大学図書館	展示はNo5	通期
第2章 芸事—たしなむ									
13	歌川豊国(三代)・歌川国久(二代)	江戸名所百人美女 小石川牛天神	大判錦絵	1枚	安政4(1857)	37.7×25.5	太田記念美術館	前	
14	歌川広重(初代)	聞香美人図	紙本淡彩	1幅	嘉永(1848～54)頃	18.3×21.0	回向院		後
15		黒塗桜唐草文様金蒔絵十種香道具 香道具箱(黒塗桜唐草文様金蒔絵) 硯 墨(銘「紫玉光」) 水滴(銀製桜唐草文様彫) 香盆(「香道具箱」内掛子) 香盤 壺形たき空入(黒塗桜唐草文様金蒔絵) 札筒(黒塗桜唐草文様金蒔絵)		1具	19世紀	— 22.2×17.8 高19.6 12.5×6.0 7.5×1.5 4.3×2.8 22.0×19.0 16.4×16.7 径5.0 高6.0 径5.0 高6.5	東京都江戸東京博物館	通期	

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間	
15		重香合(黒塗桜唐草文様金蒔絵) 香筋建(銀製六角形桜唐草文様透彫) 総包(試香包・本香包) 香札箱(黒塗桜唐草文様金蒔絵) 菊座(白貝) 香札(唐木) 銀葉 折据(帙入り) 銀葉鋏(銀製) 鶯(銀製) 灰押(銀製扇子形桜唐草文様彫) 火箸(銀製)				径5.9 高6.5 径4.5 高9.0 — 16.2×7.4 高7.1 — — — 7.0×6.0 全長10.5 全長12.0 全長13.5 全長13.7	東京都江戸東京博物館	通期	
16	古山師政	踊りの稽古図	紙本着色	1幅	延享期 (1744～48)	43.8×48.8	東京国立博物館	前	
17	川又常行	室内遊興図	紙本着色	1幅	元文～寛政 (1736～44)頃	39.2×54.8	個人		後
18	歌川国安	閨中道具八景 台子乃夜雨	大判錦絵	1枚	文政(1818～30)初期	38.5×26.3	神奈川県立歴史博物館	前	
19	歌川国丸	いせ古市牛車楼 小瀧 ちとせ 古雞亭山笑	大判錦絵	1枚	文化期 (1804～18)	39.0×26.4	神奈川県立歴史博物館		後

第3章 観られる女—愛でる

20		寛文美人	紙本着色	1幅	正保～寛文 (1644～73)頃	59.0×25.0	公益財団法人 摘水軒 記念文化振興財団	前	
21		扇舞図	紙本着色	1幅	正保～寛文 (1644～73)頃	75.0×30.0	千葉市美術館		後
22	懷月堂安度	黒地歌留多散らし衣裳の遊女	紙本着色	1幅	宝永～正徳 (1704～16)	100.0×44.5	神奈川県立歴史博物館	前	
23	懷月堂安度	立美人図	絹本着色	1幅	宝永～正徳 (1704～16)	81.8×38.9	公益財団法人 摘水軒 記念文化振興財団		後
24	北尾重政	柳屋お藤	細判紅摺 絵	1枚	明和(1764～72)末頃	28.6×13.6	国立歴史民俗博物館	前	
25		茶屋娘見立番付	間倍判色 摺	1枚	寛政5(1793)頃	31.5×44.5	千葉市美術館		後
26		「かせんむすめはくくらべ」 『一枚刷他貼交帖』より	折帖仕立	2帖 の内	安永(1772～81)頃	31.5×18.6	国文学研究資料館	通期	
27	ジョージ・スミス	Ten Weeks in Japan (日本における十週間)	印刷	1冊	1861	23.0×15.7	国際日本文化研究 センター	前	
28	フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト	<i>Nippon : Archiv zur Beschreibung von Japan und dessen neben- und Schutzländern. Jezo mit den südlichen Kurilen, Kratto, Koorai und den Liukiu-Inseln : nach japanischen und europäischen Schriften und eigen Beobachtungen</i> (日本日本とその隣国、保護国・蝦夷・南千島列島・樺太・朝鮮・琉球諸島の記録集。日本とヨーロッパの文書および自己の観察による。)	印刷	2冊 の内	1852	39.0×29.5	国際日本文化研究 センター		後

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間	
第4章 着物—まとう									
29	伝 鳥居清春	眼鏡絵 えびすや内賑わいの図	絹本着色	1幅	宝暦(1751～64)頃	40.0×50.1	個人	通期	
30	歌川豊国(三代)・歌川国久(二代)	江戸名所百人美女尾張町	大判錦絵	1枚	安政5 (1858)	36.3×25.3	東京都江戸東京博物館	前	
31	勝川春章	かゝこやしなひ草第十二	中判錦絵	1枚	安永4～5 (1775～76)頃	25.4×19.2	太田記念美術館		後
32	北尾重政	かゝこやしなひ草第五	中判錦絵	1枚	安永4～5 (1775～76)頃	25.3×19.2	神奈川県立歴史博物館		後
33		紫縮緬地桜鼓模様染縫帯	絹地	1条	19世紀	23.0×410.0	国立歴史民俗博物館	前	
34		紅呉紹服連地波錨千鳥模様縫帯	梳毛地	1条	19世紀	26.5×408.0	国立歴史民俗博物館		後
第5章 化粧—よそおう									
35	歌川広重(初代)	婦久徳金の成木うつくし木	大判錦絵	1枚	弘化4～嘉永5 (1847～52)	35.7×24.5	伊勢半本店 紅ミュージアム	前	
36	溪斎英泉	時世美女競 東都芸子	大判錦絵	1枚	文政8(1825)頃	37.8×26.0	足立区立郷土博物館		後
37	エメ・アンペール	<i>Le Japon illustré</i> (幕末日本図絵)	印刷	2冊の内	1870	35.0×25.5	国際日本文化研究センター	前	
38	フリードリヒ・シュテーター	<i>Die Nippon-Fahrer, oder, Das wiedererschlossene Japan</i> (日本渡航者、もしくは開国した日本：新旧の有名な旅行からの描写)	印刷	1冊	1861	19.8×15.2	国際日本文化研究センター		後
39		和本型紅板	金属	1枚	19世紀	4.5×4.0	国立歴史民俗博物館	通期	
		和本型白粉刷毛	金属	1本	19世紀	長さ11.5	国立歴史民俗博物館	通期	
		和本型紅筆	金属	1本	19世紀	長さ9.2	国立歴史民俗博物館	通期	
40		滝見風景彫紅板	骨	1枚	19世紀	4.2×6.4	国立歴史民俗博物館	通期	
		滝見風景彫白粉刷毛	骨	1本	19世紀	幅3.0	国立歴史民俗博物館	通期	
		滝見風景彫紅筆	骨	1本	19世紀	長さ10.5	国立歴史民俗博物館	通期	
41		紅板各種(橋千鳥文紅染象牙紅板)	象牙・漆・金属		19世紀	3.1×5.2	国立歴史民俗博物館	通期	
		(桜蒔絵象牙紅板)	象牙・漆・金属		19世紀	5.2×9.0	国立歴史民俗博物館	通期	
		(竹蒔絵象牙紅板)	象牙・漆・金属		19世紀	5.1×9.7	国立歴史民俗博物館	通期	
42		鏡台		1基	19世紀	全高60.0	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
43		染付若松文小碗	磁器	1口	19世紀前半	径5.0 高3.2	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
44		色絵草花蝶文小碗	磁器	1口	19世紀前半	径6.9 高3.0	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
45		型押し紅皿(貝殻状文)	磁器	1口	19世紀前半	径4.9 高1.6	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
46		色絵秋草文小碗	磁器	1口	19世紀前半	径8.8 高3.4	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間	
47		色絵花唐草文大碗 (白粉溶碗)	磁器	1口	19世紀前半	径14.8 高6.5	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
48		色絵幾何学花弁文段重 (白粉三段重)	磁器	1合	19世紀	径7.2 高8.3	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
49		お歯黒道具		1式	19世紀	—	伊勢半本店 紅ミュージアム	通期	
		鉄漿壺	陶器	1口		径12.0 高11.2			
		五倍子箱(大)	漆	1合		9.0×9.0 高8.5			
		五倍子箱(小)	漆	1合		4.3×4.3 高4.2			
		鉄漿沸	鍍金	1個		径7.0× 高5.2			
		童子	鍍金	1口		径6.7 高3.1			
		歯黒筆	—	1本		長さ14.9			
		歯黒筆	—	1本		長さ15.2			
		歯黒筆	—	1本		長さ15.4			
		渡金	鍍金	1枚		33.5×7.0			
		耳盥	漆	1面		横35.0 高18.0			
		嗽碗	磁器	1口		径14.5 高7.0			
50	玉川舟調	風流七ツ目絵合 巳と亥	大判錦絵	1枚	寛政期 (1789～1801)	38.2×24.2	神奈川県立歴史博 物館	前	
51	喜多川月磨	松葉屋内 歌之助 喜 瀬川	大判錦絵	1枚	享和期 (1801～04)	32.3×22.0	神奈川県立歴史博 物館		後
52	歌川広重(初代)	東海道五十三図 会 亀山	大判錦絵	1枚	弘化4～嘉永5 (1847～52)	37.8×25.8	太田記念美術館	前	
53	歌川広重(初代)・ 歌川豊国(三代)	双筆五十三次 品川	大判錦絵	1枚	安政元(1854)	36.5×25.5	神奈川県立歴史博 物館		後
54	歌川豊国(二代)・ 歌川国弘	風流東姿 十二支 申	大判錦絵	1枚	文政期 (1818～30)	38.4×26.0	東京都江戸東京博 物館	前	
55	歌川豊国(三代)・ 歌川国久(二代)	江戸名所百人美女 今川はし	大判錦絵	1枚	安政5(1858)	36.4×25.2	東京都江戸東京博 物館		後
56		結髪雛形模型 燈籠髷・つぶし島田		1個	現代	幅20.0 奥行16.0	国立歴史民俗博物 館	通期	
57		結髪雛形模型 勝山髷		1個	現代	幅14.5 奥行16.5	国立歴史民俗博物 館	通期	
58		結髪雛形模型 おすべらかし		1個	現代	幅18.0 全長84.0	国立歴史民俗博物 館	通期	
59		結髪雛形模型 横兵庫(江戸・吉原)		1個	現代	幅26.0 奥行19.0	国立歴史民俗博物 館	通期	
60		斑入鼈甲櫛	鼈甲	1枚	19世紀	長さ12.8	国立歴史民俗博物 館	通期	
		斑入鼈甲簪	鼈甲	1本	19世紀	長さ18.5	国立歴史民俗博物 館	通期	
61		斑入鼈甲櫛	鼈甲	1枚	19世紀	長さ10.4	国立歴史民俗博物 館	通期	
		斑入鼈甲簪	鼈甲	1本	19世紀	長さ19.3	国立歴史民俗博物 館	通期	
62		銀鍍金牡丹透彫平打 簪	金属	1本	19世紀	長さ23.1	国立歴史民俗博物 館	通期	
		洋銀鍍金牡丹透彫平 打簪	金属	1本	19世紀	長さ20.0	国立歴史民俗博物 館	通期	

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間
63		茶金石玉簪 (ガラス玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ18.7	国立歴史民俗博物館	通期
		(銀鍍金紗綾形彫玉付簪)		1本	19世紀	長さ21.1	国立歴史民俗博物館	通期
		(銀七宝文透玉飾簪)		1本	19世紀	長さ16.8	国立歴史民俗博物館	通期
64		玉簪 (雁橋珊瑚玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ25.6	国立歴史民俗博物館	通期
		(松竹梅珊瑚玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ20.5	国立歴史民俗博物館	通期
		(珊瑚玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ18.7	国立歴史民俗博物館	通期
		(緑ガラス珊瑚玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ14.3	国立歴史民俗博物館	通期
		(緑ガラス玉付簪)	銀	1本	19世紀	長さ21.7	国立歴史民俗博物館	通期
65		金地菊紋散蒔絵櫛	木・漆・ 金属	1枚	19世紀	6.6×12.9	国立歴史民俗博物館	通期
66		金地月秋草虫蒔絵櫛	木・漆・ 金属	1枚	19世紀	7.4×13.5	国立歴史民俗博物館	通期

第6章 娯楽—あそぶ

67	歌川広重(初代)	江戸名所図四季の眺 御殿山花見之図	大判錦絵	三枚 続	弘化4～嘉永元 (1847～48)頃	37.0×77.0	神奈川県立歴史博物館	前	
68	歌川国芳	隅田川花見	大判錦絵	三枚 続	弘化4～嘉永5 (1847～52)	36.3×72.2	東京都江戸東京博物館		後
69	歌川国貞(初代)	風流五節句之内 弥生	大判錦絵	1枚	天保14(1843) 頃	37.5×25.5	東京都江戸東京博物館	前	
70	歌川国貞(初代)	風流五節句之内 七夕	大判錦絵	1枚	天保14～弘化3 (1843～46)頃	37.1×25.2	足立区立郷土博物館		後
71	歌川房種	古代名所摘	団扇絵	1枚	弘化4～嘉永5 (1847～52)	23.3×30.3	足立区立郷土博物館	前	
72	歌川国貞(初代)	星の霜当世風俗 蚊やき	大判錦絵	1枚	文政2(1819)頃	38.0×26.1	足立区立郷土博物館		後
73	歌川国貞(初代)	神楽月 顔見せの光景	大判錦絵	三枚 続	文化12～14 (1815～17)頃	36.9×78.9	千葉市美術館	通期	

第7章 労働—はたらく

74	溪斎英泉	新板娘庭訓出世双六	錦絵	1枚	天保14～弘化4 (1843～47)	50.0×69.0	東京都江戸東京博物館		後
75	溪斎英泉	新板娘庭訓出世双六	錦絵	1枚	天保14～弘化4 (1843～47)	51.0×66.0	東京都江戸東京博物館	前	
76	喜多川歌麿	料理をする母娘	大判錦絵	1枚	寛政(1789～ 1801)末期	38.2×25.2	神奈川県立歴史博物館	前	
77	歌川国貞(初代)	洗濯する婦人	大判錦絵	1枚	文化8～天保15 (1811～44)頃	38.3×26.7	足立区立郷土博物館		後
78	歌川国貞(初代)	江戸新吉原八朔白無 垢の図	大判錦絵	三枚 続	文政(1818～ 30)末期	37.3×75.0	神奈川県立歴史博物館	A	B
79	歌川国貞(初代)	新吉原江戸町一丁目 玉屋山三郎仮宅ノ図	大判錦絵	三枚 続	天保6(1835)	37.0×71.5	東京都立中央図書館 特別文庫室		C
80	玉蘭斎貞秀	於竹	大判錦絵	三枚 続	嘉永2(1849)	37.0×76.8	回向院	前	
81	歌川豊国(三代)	睦月若湯乃図	大判錦絵	三枚 続	天保14～弘化4 (1843～47)	37.2×75.4	東京都江戸東京博物館		後
82	歌川豊国(三代)	見立 福人子宝富根 弁財天	大判錦絵	1枚	弘化(1844～ 47)頃	36.4×26.4	公文教育研究会	前	
83	歌川豊国(三代)	江戸名所百人美女 長命寺	大判錦絵	1枚	安政4(1857)	36.4×24.6	東京都江戸東京博物館		後

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間
84	鈴木春信	『絵本節操草』	墨摺半紙 本	1冊	安永7(1778)刊	22.6×16.0	国文学研究資料館	通期
85	歌川豊国(初代)	『絵本時世粧』上之巻	色摺半紙 本	2冊 の内	享和2(1802)刊	21.6×15.1	国文学研究資料館	A B
86	靖中庵桃溪 画 国東治兵衛 選	『紙漉重宝記』	墨摺	1冊	寛政10(1798)刊	22.8×15.7	国文学研究資料館	通期

第8章 結婚・出産・子育て一家族をつくる

87	歌川国芳	婚礼色直し之図	大判錦絵	三枚 続	天保14～弘化4 (1843～47)	34.7×71.3	東京都立中央図書館 特別文庫室	A	
88	歌川国芳	三定例之内 婚礼之図	大判錦絵	三枚 続	弘化4～嘉永5 (1847～52)	35.7×74.2	東京都立中央図書館 特別文庫室		B
89	歌川豊国(三代)	源氏御祝言図	大判錦絵	三枚 続	文久元(1861)	35.5×73.0	東京都立中央図書館 特別文庫室		C
90	ロベール・ブラウ ン	<i>The races of mankind: being a popular description of the characteristics, manners and customs of the principal varieties of the human family</i> (人種:人類の主な種 類の特徴と風俗習慣 の平易な記述)	印刷	2冊 の内	1873～76	26.7×20.0	国際日本文化研究 センター	前	
91		三行半 去状之事	墨書	1紙	元治2(1865)	24.6×34.8	慶應義塾大学文学 部古文書室	通期	
92	勝川春潮	『絵本栄家種』下	色摺半紙 本	2冊 の内	寛政2(1790)刊	21.7×15.4	公文教育研究会		後
93	葛飾応為 画 高井蘭山 編	『女重宝記』	墨摺 (一部色摺)	1冊	弘化4(1847)刊	25.7×17.8	国文学研究資料館	通期	
94	豊嶋治左衛門 豊嶋弥右衛門 撰	『名物鹿子』上	墨摺	3冊 の内	享保18(1733)刊	22.7×15.9	早稲田大学図書館	B	C
95	歌川国貞(二代)	御誕生 田舎源氏須磨の寿	大判錦絵	三枚 続	慶応3(1867)	34.7×70.9	東京都立中央図書館 特別文庫室	A	
96	歌川豊国(三代)	誕生	大判錦絵	二枚 続	弘化4～嘉永5 (1847～52)	35.5×49.8	東京都立中央図書館 特別文庫室	B	
97	蓬萊春升	ひのえ(午)歳生れ子 のおしゑ書	大判錦絵	1枚		31.7×23.5	国際日本文化研究 センター		C
98	喜多川月磨	子をあやす母	大判錦絵	1枚	文化期 (1804～18)	39.3×26.3	足立区立郷土博物 館	前	
99	歌川国貞(初代)	婦人一代鑑 喰初の図	大判錦絵	1枚	天保14～15 (1843～44)	37.9×24.2	公文教育研究会		後
100	溪斎英泉	当世子宝十景 高縄の月見	大判錦絵	1枚	文政(1818～ 30)頃	38.8×25.9	公文教育研究会	前	
101	柳川重信(二代)	薫物合 榊葉	色紙判摺 物	1枚	天保(1830～ 44)頃	21.1×18.3	公文教育研究会		後
102	歌川国芳	山海名産尽 紀州鯨	大判錦絵	1枚	文政(1818～ 30)頃	37.5×25.6	公文教育研究会	前	
103	歌川豊国(三代) 歌川国久(二代)	江戸名所百人美女 溜いけ	大判錦絵	1枚	安政5(1858)	35.9×24.6	公文教育研究会		後

第9章 教育—まなぶ

104	歌川国輝(初代)	湯島 音曲さらいの図	大判錦絵	三枚 続	安政5(1858)	36.9×75.4	公文教育研究会	前	
105	歌川豊国(初代)	風流てらこ吉書は じめけいこの図	大判錦絵	三枚 続	文化2(1805)頃	37.2×76.8	公文教育研究会		後
106	池田東籬	『童女専用 女寺子調 法記』	墨摺	1冊	文化3(1806)刊	22.5×15.6	国文学研究資料館	通期	

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間		
107	十返舎一九	『倡客竅学問』	墨摺	1冊	享和2(1802)	15.6×11.0	国文学研究資料館			後
108	勝川春潮	『艶図美哉花』下巻	墨摺半紙 本	3冊 の内	天明7(1787)	21.7×15.5	国際日本文化研究 センター	前		
109	窪田つる、 西川祐信	『女今川姫鏡』	墨摺	1冊	宝暦13(1763)刊	25.3×18.2	千葉市美術館(ラ ヴィッツコレク ション)		通期	
110	喜多川歌麿	教訓親の目鑑 理口者	大判錦絵	1枚	享和(1801～ 04)頃	36.8×25.2	東京都江戸東京博 物館	前		
111	溪斎英泉	契情道中双録 坂の下 見立よしはら 五十三つゝ 佐野松屋 内 桂木	大判錦絵	1枚	文政8(1825)頃	38.5×25.6	千葉市美術館			後
第10章 色恋一たのしみ										
112	葛飾北斎(葛飾派)	絵本 つひの雛形	折帖錦絵	1冊	文化9(1812)	26.5×39.0	浦上満氏	A	B	
113	葛飾北斎(葛飾派)	絵本 つひの雛形	大判錦絵	12枚 組物の 内	文化9(1812)	27.0×39.0	国際日本文化研究 センター			C
114	司馬江漢	『艶道増かゝみ』	墨摺半紙 本	1冊	明和6(1769)序	20.0×15.0	国際日本文化研究 センター	前		
115	北尾重政	『艶本色見種』上巻	墨摺半紙 本	3冊 の内		21.5×15.0	国際日本文化研究 センター			後
116	貝原益軒	『女大学宝箱』	墨摺大本	1冊	享保元(1716)	26.2×13.8	浦上満氏		通期	
117	月岡雪鼎	『女大楽宝開』	墨摺大本	1冊	宝暦(1751～ 64)後期頃	27.0×18.6	浦上満氏		通期	
118	河鍋曉斎	はなごよみ (正月、四月、七月) はなごよみ (二月、五月、八月、十一月) はなごよみ (三月、六月、九月、十二月)	豆判錦絵	12枚 組物の 内	文久4(1864)	各9.2× 12.6	国際日本文化研究 センター	A		
									B	
										C
119	杉村治兵衛	欠題組物(若衆と遊女) 欠題組物(武者と女武者)	大判墨摺	12枚 組物の 内	元禄(1688～ 1704)前期	各26.1× 36.4	国際日本文化研究 センター	前		後
120	歌川豊国(三代)画 女好庵主人(松亭 金水)作	『正写相生源氏』上巻 『正写相生源氏』中巻 『正写相生源氏』下巻	色摺大本	3冊 の内	嘉永4(1851)頃	各25.0× 18.7	国際日本文化研究 センター	A	B	C
121	歌川国貞(初代)	『花鳥余情 吾妻源氏』 上巻	色摺大本	3冊 の内	天保6～12 (1835～41)頃	25.5×18.8	国際日本文化研究 センター	A		
122	石川豊信	『色系図』中巻	墨摺横本	3冊 の内	寛延(1748～ 51)頃	14.6×21.7	国際日本文化研究 センター		B	C
123	西川祐信	『色ひいな形』第三 百性風	墨摺横本	5冊 の内	宝永8(1711)	13.2×18.5	早稲田大学図書館	A	B	
124	喜多川歌麿	床の梅 (奥女中と恋人)	中判錦絵	12枚 組物の 内	寛政12(1800)	18.8×25.6	国際日本文化研究 センター			C
125	鈴木春信	風流艶色真似ゑもん (田植え姿のおかし き恋) 風流艶色真似ゑもん (かぼちゃ老人のた のしみ) 風流艶色真似ゑもん (養蚕部屋の夫婦の ひと時)	中判錦絵	24枚 組物の 内	明和7(1770)	各21.9× 28.4	国際日本文化研究 センター	A		
									B	
										C

No.	作 者	作品名	材質 技法	員数	制作年	法 量	所 蔵	展示期間		
126	鳥居清長	時枚十二鑑 としま 時枚十二鑑 よし原 時枚十二鑑 げいしや	中判錦絵	12枚 組物の内	天明4(1784)頃	各19.3× 26.0	国際日本文化研究 センター	A		
127	歌川国安	十六夢左支	間倍判錦 絵	1枚	天保(1830～ 44)頃	35.2×48.9	国際日本文化研究 センター	A	B	C
128		心欲見立当物	錦絵	1枚		24.2×24.4	国際日本文化研究 センター		B	
129		今様美人名開双陸	大倍判錦 絵	1枚		37.5×51.7	国際日本文化研究 センター			C
130	鳥居清長	袖の巻(妊婦) 袖の巻(若い男女)	柱絵横判 錦絵	12枚 組物の内	天明5(1785)頃	各12.5× 67.0	浦上満氏			後 後
131	葛飾北斎	富久寿楚宇	大判錦絵	12枚 組物の内	文化12～文政 (1815-30)前期	25.5×35.8	浦上満氏	前		
132	喜多川歌麿	床の梅(母親と恋人)	中判錦絵	12枚 組物の内	寛政12(1800)	18.8×25.7	国際日本文化研究 センター	前		
133	勝川春潮	好色図会十二候 (正月、四月) 好色図会十二候 (六月、七月) 好色図会十二候 (九月、十一月)	大判錦絵	12枚 組物の内	天明8(1788)頃	各25.3× 37.3	国際日本文化研究 センター	A	B	C
134	喜多川歌麿	ねがひの糸ぐち (遊女と間夫) ねがひの糸ぐち (鏡台)	大判錦絵	13枚 組物の内	寛政11(1799)	各25.5× 38.7	国際日本文化研究 センター	A A		
135	喜多川歌麿	歌まくら	大判錦絵	12枚 組折帖の 内	天明8(1788)	25.4×37.0	浦上満氏		B	
136	鳥文斎栄之	源氏物語春画巻 上巻	紙本着色	2巻 の内	18世紀末～19 世紀前期	22.0×772.1	浦上満氏			C

・前期:4月6日(土)～5月1日(水)、後期:5月3日(金・祝)～26日(日)

・A期:4月6日(土)～21日(日)、B期:4月24日(水)～5月9日(木)、C期:5月10日(金)～26日(日)

・法量の単位はcm

特別展

華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化 100 years of Japanese Tableware - Okuratouen

会期＝令和元(2019)年6月8日(土)～7月28日(日)

会場＝地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館、神奈川新聞社

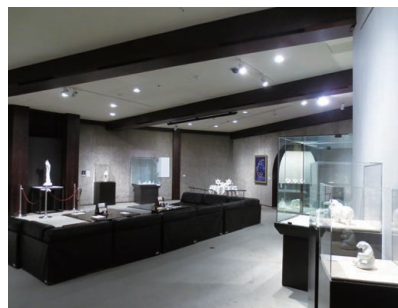
特別協力＝株式会社大倉陶園

大正8(1919)年に大倉孫兵衛、和親父子によって創設された大倉陶園は、日本を代表する洋食器メーカーとして、今日まで世界に誇る製品を生み出し続けてきた。本展は、同園の優れたデザインや品質を紹介するとともに、多くの財界人や老舗ホテル等のために製作された作品を展示し、日本の洋食器文化における同園の役割を探った。また、最新の調査結果を反映し、これまで知られることのなかった創業当時の様子を伝える資料も併せて展覧した。

本展は5章構成。第1会場である地下1階主陳列室は、大倉陶園の草創期を紹介する「日本人による日本人のための洋食器」にはじまり、「洋風文化の立役者」「西洋へのまなざし 陶彫と沼田一雅」と、その発展の様子を時代を追って紹介した。2階の第2会場では、皇室ゆかりの作品を紹介する「大倉陶園のお誂え食器」、地下1階展示室から続く「西洋へのまなざし 陶彫と沼田一雅」、そして最終章「日本の洋食器を追い求めて 戦後～現在」と、同園が創立100年を迎える現在までの軌跡を展覧した。出品総数は131件。そのほか、デッサンや新出資料13件を展示した。

会期中のイベントは、大倉陶園のデザイナーで代表取締役の百木春夫と親交のあった、三國清三シェフの特別講演会や、同園の黒澤学氏(社史研究者)、当館副館長、担当学芸員による連続特別講座、同園ペインターによる絵付け実演、同園のうつわを実際に使用する「コーヒーブレイク」を開催し、大倉陶園の歴史や作品の魅力を多方面から深く理解する機会を設けることができた。

7月22日(月)には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下がご来館され、当館西岡館長が先導し、鈴木好幸氏(株式会社大倉陶園代表取締役社長)のご説明とともにご覧いただいた。



出品目録

No.	作品名	製作年	所蔵	展示期間
第1章 大倉陶園のお詠え食器				
1	金白金蝕白樺 食器揃 上皇后陛下御調度品	昭和34(1959)年		
2	岡染め白樺 食器揃 上皇后陛下御調度品	昭和34(1959)年		
3	岡染めベアー 食器揃 天皇陛下(当時の徳仁親王殿下) お箸初めの儀 東宮御所御用食器	昭和36(1961)年		
4	金白金蝕梓 食器揃 天皇陛下(当時の徳仁親王殿下) お箸初めの儀 東宮御所御用食器	昭和36(1961)年		
5	瑠璃金白金蝕桐菊模様 食器揃 上皇 上皇后両陛下御使用 東宮御所御用食器	昭和46(1971)年		
6	ヒドロ虫目呉須 絵替り皿 昭和天皇陛下御在位50周年に際し、 上皇 上皇后両陛下が御献上になった御品	昭和50(1975)年		
7	上絵那須之花 絵替り皿 昭和天皇陛下80才の御生誕御祝として、 上皇 上皇后両陛下が御献上になった御品	昭和56(1981)年		
8	上絵那須之花 絵替り皿 香淳皇后陛下80才の御生誕御祝として、 上皇 上皇后両陛下が御献上になった御品	昭和58(1983)年		
9	青華貝づくし紋 食器揃 昭和天皇陛下御成婚60周年に際し、 上皇 上皇后両陛下が御献上になった御品	昭和59(1984)年		
10	瑠璃金彩岡染め梓模様 食器揃 天皇陛下御使用 東宮御所御用食器	平成3(1991)年		
11	ブルーグレー金白金蝕重ね懷紙模様 食器揃 上皇 上皇后両陛下 御所御用食器	平成9(1997)年		
12	岡染め金蝕 桐と檜扇菖蒲模様 食器揃 秋篠宮家	平成11(1999)年		
13	パールグレー白金彩線条紋 食器揃 上皇 上皇后両陛下 御所御用食器	平成21(2009)年		
第2章 日本人による日本人のための洋食器				
14	白磁薄肉彫蓋付菓子鉢	大正11(1922)年	大倉陶園	
15	白磁薄肉彫菓子鉢	大正11(1922)年	個人蔵	
16	白磁薄肉彫菓子銘々皿	大正11(1922)年	大倉陶園	
17	作者不詳 大倉孫兵衛肖像画	不詳	大倉陶園	
18	鬼頭鍋三郎 大倉和親肖像画	昭和44(1969)年	大倉陶園	
19	幸野棹嶺『棹嶺百鳥画譜』 出版人:大倉孫兵衛 出版:錦栄堂	明治14(1881)年10月18日 版權免許	公益財団法人森村豊明会	
20	幸野棹嶺『棹嶺花鳥画譜』 出版人:大倉孫兵衛	明治16(1883)年	大倉陶園	
21	葛飾北斎『前北斎富士勝景』 印刷兼翻刻発行者:大倉孫兵衛 出版:錦栄堂	明治22(1889)年	大倉陶園	
22	白磁金彩皿、珈琲碗皿、紅茶碗皿、スープ 碗皿	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
23	白磁雲鶴彫電気スタンド	大正14(1925)年	大倉陶園	
24	尾長鶏	昭和9(1934)年	大倉陶園	
25	白磁金彩デミタスセット	昭和4(1929)年	個人蔵	
26	白磁金彩シャーベットセット	昭和8(1933)年	東京村田コレクション	
27	岡染付薔薇花瓶	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
28	岡染付薔薇ベリールセット	昭和7(1932)年	個人蔵	
29	岡染付黄地薔薇珈琲セット	昭和10-20(1935-1945)年	大倉陶園	

No.	作品名	製作年	所蔵	展示期間
30	上絵染付牡丹花瓶	大正12-昭和24(1923-1940s)年	個人蔵	前期
31	岡染付金彩花瓶	大正12-昭和24(1923-1940s)年	個人蔵	後期
32	金蝕石榴文ベリ－セット	昭和3(1928)年	個人蔵	
33	蒔絵蝕プラタナス文ベリ－セット	昭和2(1927)年	大倉陶園	
34	馬「和鞍置きたる馬」 原型:伊藤國男	昭和9(1934)年	大倉陶園	
参考資料	『大倉陶園廿五年誌』 (『大倉陶園二十五年譜紀』草稿)		大倉陶園	
参考資料	日野厚から岩田恒三郎に宛てられた絵葉書	昭和5(1930)年6月8日、 18日、7月2日	大倉陶園	
参考資料	岩田恒三郎のデッサン「ばら」	昭和14(1939)年11月23日	大倉陶園	
参考資料	岩田恒三郎のデッサン「菜の花(温室)」	昭和15(1940)年1月10日	大倉陶園	
参考資料	世良延雄による大倉和親への聞き書き	昭和21(1946)年7月11日	大倉陶園	
第3章 洋風文化の立役者				
35	富士屋ホテル 岡染付富士絵替食器揃	昭和10(1935)年	富士屋ホテル	
36	富士屋ホテル 蒔絵高山植物絵替食器揃	昭和10(1935)年	富士屋ホテル	
37	奈良ホテル 貴賓用特別食器揃 満州国皇帝溥儀を迎えるに際し製作	昭和10(1935)年	奈良ホテル	
38	資生堂アイスクリームパーラー食器揃	昭和2-3(1927-1928)年	資生堂企業資料館	
39	上絵金蝕皿	昭和2(1927)年	大倉陶園	
40	瑠璃金蝕忘れな草紅茶碗皿、ケーキ皿	昭和6(1931)年	東京村田コレクション	
41	瑠璃金彩食器揃	昭和10-20(1935-1945)年	藤山家	
42	金蝕コンポート	大正15(1926)年	大倉陶園	前期
43	金蝕フルーツセット	大正14(1925)年	個人蔵	後期
44-1	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	大倉陶園	後期
44-2	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	大倉陶園	前期
44-3	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	大倉陶園	後期
44-4	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	個人蔵	前期
44-5	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	個人蔵	後期
44-6	瑠璃透彫サービス皿	昭和15-20(1940-1945)年	東京村田コレクション	前期
45	ライオン	昭和16(1941)年	個人蔵	
参考資料	大阪三越催事案内カタログ	昭和3(1928)5月号	個人蔵	
46	色蒔煙草セット	大正15(1926)年	大倉陶園	
47	色蒔ウーロン茶用ポット	昭和9(1934)年	大倉陶園	
48	色蒔デミタス碗皿	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
49	色蒔デミタス碗皿	昭和3(1928)年	個人蔵	
50	色蒔ナプキンリング	昭和8(1933)年	個人蔵	
51	上絵蓋物	昭和10-20(1935-1945)年	大倉陶園	
52	色蒔灰皿	昭和4(1929)年	大倉陶園	
53	色蒔花器	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
54-1	青蒔レリーフ鉢カバー	昭和2(1927)年	個人蔵	
54-2	黄蒔レリーフ鉢カバー	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
55	色蒔珈琲碗皿	昭和7(1932)年	東京村田コレクション	前期
56	色蒔珈琲碗皿	昭和5(1930)年	東京村田コレクション	後期
57	瑠璃金銀彩小花文珈琲セット	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
58	瑠璃金彩白盛紅茶碗皿、ケーキ皿	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
59	瑠璃金銀蝕サンドイッチ皿	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
60	蒔絵銀杏文紅茶碗皿	昭和3(1928)年	個人蔵	
61	瑠璃金彩珈琲碗皿	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	

No.	作品名	製作年	所蔵	展示期間
62	蒔絵人物文ベリー皿	大正15(1926)年	東京村田コレクション	
63	上絵植物文ベリー皿	昭和2(1927)年	東京村田コレクション	
64	呉須鳥文紅茶碗皿	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
65	上絵呉須草花珈琲セット	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
66	呉須掬文珈琲碗皿	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
67	上絵龍文紅茶セット	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
68	呉須銀彩龍文壺	大正12-昭和24(1923-1940s)年	東京村田コレクション	
69	白盛菊文紅茶セット	昭和19(1944)年	大倉陶園	
70	青磁キャセロール	昭和21(1946)年	個人蔵	
第4章 西洋へのまなざし 沼田一雅と陶彫				
71	ジプシーの踊子	昭和3(1928)年	個人蔵	
72	農夫	昭和9(1934)年	東京村田コレクション	
73	ゴルファー (男)	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
74	ゴルファー (女)	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
75	スキーヤー	昭和6(1931)年	東京村田コレクション	
76	乗馬	昭和6(1931)年	東京村田コレクション	
77	兵隊	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
78	ボルゾイ	昭和9(1934)年	東京村田コレクション	
79	ブラッドハウンド	昭和6(1931)年	岐阜県立多治見工業高等学校(岐阜県現代陶芸美術館寄託)	
80	セッター	昭和9(1934)年	個人蔵	
81	エアデールテリア	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
82	シェパード	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
83	シェパード	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
84	グレイハウンド	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
85	猫	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
86	眠る猫	昭和5(1930)年	東京村田コレクション	
87	牛	昭和5(1930)年	東京村田コレクション	
88	カモシカ 羚羊	昭和5(1930)年	大倉陶園	
89	猪	昭和9(1934)年	東京村田コレクション	
90	モグラ 土竜	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
91	ラクダ 駱駝	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
92	サイ 犀	昭和5(1930)年	東京村田コレクション	
93	虎 原型:池田勇八	昭和2(1927)年頃	大倉陶園	
94	熊	昭和9(1934)年	個人蔵	
95	雛	昭和8(1933)年頃	東京村田コレクション	
96-1	雛	昭和8(1933)年	東京村田コレクション	
96-2	雛	昭和8(1933)年頃	東京村田コレクション	
97	雛	昭和8(1933)年	個人蔵	
98	鶏	昭和8(1933)年	東京村田コレクション	
99	鶏	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
100	鳥「若菜をつむ」 原型:池田勇八	昭和8(1933)年	個人蔵	
101	サギ 鷺	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
102	アヒル 家鴨	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
103	オウム 鸚鵡	昭和3(1928)年	東京村田コレクション	
104	オウム 鸚鵡	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
105	ヤマメ 山女魚	昭和8(1933)年	個人蔵	

No.	作品名	製作年	所蔵	展示期間
106	サシマ 秋刀魚	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
107	魚	昭和8(1933)年	個人蔵	
108	魚	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
109	魚	昭和10-20(1935-1945)年	東京村田コレクション	
110	魚	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
111	魚	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
112	ヒツジ 緬羊 原型:沼田一雅	昭和17-20(1942-1945)年	大倉陶園	
113	熊	昭和26-31(1951-1956)年頃	大倉陶園	
114	白熊	昭和26-31(1951-1956)年頃	大倉陶園	
115	チャボ 矮鶏	昭和26-31(1951-1956)年頃	大倉陶園	
116	上絵花籠	昭和11-20(1936-1945)年	大倉陶園	
117	上絵薔薇蓋物	昭和10-20(1935-1945)年	大倉陶園	
118	上絵薔薇蓋物	昭和10-20(1935-1945)年	大倉陶園	
119	上絵花カード立	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
120	上絵花付蓋物	昭和10-20(1935-1945)年	個人蔵	
第5章 日本の洋食器を追い求めて 戦後～現在				
121	赤坂迎賓館食器揃	昭和49(1974)年	迎賓館赤坂離宮	
122	京都迎賓館食器揃	平成17(2005)年	京都迎賓館	
123	呉須正倉院 紅茶セット	昭和35(1960)年	大倉陶園	後期
124	金蝕薔薇 紅茶セット	昭和27(1952)年	大倉陶園	前期
125	ホテルニューグランド 珈琲セット	昭和45(1970)年	ホテルニューグランド	
126	ザ・オークラ 碗皿、ケーキ皿	昭和54(1979)年	大倉陶園	
参考資料	《ザ・オークラ スウィートメモリー》のためのデザイン画	昭和54(1979)年	大倉陶園	
参考資料	《ザ・オークラ ブルーインペリアル》のためのデザイン画	昭和54(1979)年	大倉陶園	
127	どんぐりのバラード プレート	昭和54(1979)年	大倉陶園	
参考資料	百木春夫《どんぐりのバラード プレート》のためのデザイン画		大倉陶園	
参考資料	百木春夫《どんぐりのバラード カップ》のためのデザイン画		大倉陶園	
128	オテル・ドゥ・ミクニ 12ヶ月のプレート	昭和60(1985)年	オテル・ドゥ・ミクニ	
129	一本のバラ プレート	平成2(1990)年	大倉陶園	
参考資料	百木春夫《一本のバラ プレート》のためのデザイン画		大倉陶園	
130	日本 プレート	平成11(1999)年	大倉陶園	
131	天文十二月 プレート	平成6(1994)年	個人蔵	
参考資料	テーブルセッティング 百花譜	平成30(2018)年	大倉陶園	
参考資料	陶板 メリーゴーランド	平成30(2018)年	大倉陶園	

・前期:6月8日(土)～30日(日)、後期:7月2日(火)～28日(日)

・展示期間の欄に記載のない作品は通期展示

特別展

ちゅしま

美ら島からの染と織—色と文様のマジック

Churashima Textiles—the Magic of Color and Pattern

会期＝令和元(2019)年8月10日(土)～9月23日(月・祝)

会場＝地下1階主陳列室、2階サロン・ミュージゼ、特別陳列室

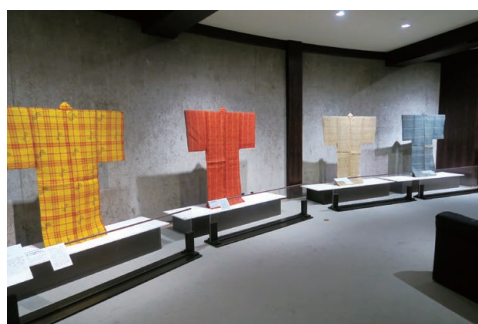
主催＝渋谷区立松濤美術館

沖縄は明治時代以前には琉球王国として栄え、そこでは独自の染織文化が花開いた。本展では、紅型を始めとする、最高の質を誇る国宝の琉球国王尚家伝来の染織品を中心に、芭蕉布、上布などの優品を展示し、同地で発達した独自の染織文化を紹介した。また紅型の道具や文様見本帖などによってその技法の一端にふれ、染織文化への理解を深める内容とした。そして、今日までこうした技術が伝承されてきていることをふまえ、人間国宝の作家らによる現代の最高峰の諸作品により、沖縄の染織の現状も併せて展覧した。

本展覧会は、沖縄県立博物館・美術館、一般財団法人沖縄美ら島財団および那覇市歴史博物館の全面的なご協力とそのコレクションにより構成されており、70件の出品はすべて制作地に直接由来する沖縄からのものであり、この点が本展の大きな特色であった。

第1会場の地下1階展示室では、尚家伝来の国宝の紅型衣装をはじめとする沖縄の伝統的な染織品を展示した。第2会場の2階展示室では所蔵者の特別な配慮により、人間国宝の作家らの作品の一部を露出展示をした。特に人間国宝の平敏子の芭蕉布の着物について、素材感や仕立てを直に確認できたことが、来館者に大変喜ばれた。さらに藤村玲子の紅型作品や大城志津子の両面浮花織作品なども露出展示できたことで、当代一流の作家の染織技術を多くの方に知って頂いた。また、第2会場では着物以外の染織品や琉球の絣のデザイン帖である「御絵図帳」なども併せて展示した。

会期中に、沖縄の伝統音楽と舞踊のコンサートを行い、大勢の方に沖縄の染織が培われた風土を感じて頂いた。



出品目録

No	作品名	時代	材質	サイズ	所蔵	8/10 ~25	8/27 ~9/8	9/10 ~23
第1章 紅型—沖縄の至高の染色品								
1	黄色地鳳凰牡丹文様紅型縮緬 袷衣裳	国宝	18-19 世紀	絹	丈126.2 衿57.5	那覇市 歴史博物館		
2	黄色地鳳凰蝙蝠宝尽青海立波 文様紅型綾袷衣裳	国宝	18-19 世紀	絹	丈150.5 衿69.5	那覇市 歴史博物館		
3	白地牡丹尾長鳥流水菖蒲文様 紅型木綿衣裳	国宝	18-19 世紀	木綿	丈118.5 衿49.6	那覇市 歴史博物館		
4	空色地貝藻梅紅葉松葉木目文 様紅型木綿袷衣裳	国宝	18-19 世紀	木綿	丈135.5 衿70.0	那覇市 歴史博物館		
5	白地松桜紅葉亀松皮菱繫文様 紅型木綿衣裳	国宝	18-19 世紀	木綿	丈146.7 衿69.0	那覇市 歴史博物館		
6	白地流水菖蒲蝶燕文様紅型苧 麻衣裳	国宝	18-19 世紀	苧麻	丈134.3 衿66.0	那覇市 歴史博物館		
7	白地震枝垂桜燕文様紅型苧麻 衣裳	国宝	18-19 世紀	苧麻	丈134.0 衿66.0	那覇市 歴史博物館		
8	水色地波濤鶴桜文様紅型苧麻 衣裳		18-19 世紀	苧麻	丈132.5 衿66.8	那覇市 歴史博物館		
9	朱地稲妻鶴亀松竹梅文様紅型 木綿袷衣裳		18-19 世紀	木綿	丈115.25 衿60.8	那覇市 歴史博物館		
10	水色地松葉列点唐草小花文様 紅型苧麻衣裳		18-19 世紀	苧麻	丈124.4 衿64.0	那覇市 歴史博物館		
11	苧麻白地稲妻に花の丸模様衣 裳		19世紀	苧麻	丈91.5 衿59.5	沖縄県立博 物館・美術館		
12	木綿白地牡丹模様衣裳		19世紀	木綿	丈117.0 衿71.0	沖縄県立博 物館・美術館		
13	木綿白地牡丹唐草幾何学模様 衣裳		19世紀	木綿	丈121.0 衿60.0	沖縄県立博 物館・美術館		
14	木綿水色地菊水に団扇模様衣 裳(裏: 木綿花色地菊水に団扇 松桃模様)		19世紀	木綿	丈113.0 衿64.0	沖縄県立博 物館・美術館		
15	木綿浅地波に桜千鳥模様衣裳		19世紀	木綿	丈121.5 衿61.0	沖縄県立博 物館・美術館		
16	桐板浅地鶴に松梅模様衣裳		19世紀	桐板	丈127.0 衿53.5	沖縄県立博 物館・美術館		
17	苧麻白地花籠牡丹燕菖蒲波頭 文様両面紅型単衣裳		18世紀 後半- 19世紀 前半	苧麻	丈156.0 衿73.3	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
18	桐板白地花籠燕文様両面紅型 単衣裳		19世紀	桐板	丈115.0 衿51.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
19	苧麻浅地雲取に枝垂桜燕文様 紅型衣裳		19世紀	苧麻	丈129.0 衿56.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
20	染分地木綿松竹雲に燕遠山文 様紅型袷衣裳		19世紀	木綿	丈125.0 衿66.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
21	絹織染分地鶴と松梅菊文様両 面紅型胴衣		19世紀	絹	丈95.0 衿77.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
22	木綿浅地松竹梅に菊文様紅型 袷子供衣裳		19世紀	木綿	丈77.5 衿43.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
23	絹黄色地枝垂桜楼閣小鳥文様 紅型袷衣裳		19世紀	絹	丈128.0 衿58.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
第2章 沖縄の織物								
24	桃色地経緯緋苧麻衣裳		18-19 世紀	苧麻	丈129.0 衿66.5	那覇市 歴史博物館		

No	作品名	時代	材質	サイズ	所蔵	8/10 ~25	8/27 ~9/8	9/10 ~23
25	水色地経緯緋木綿衣裳	18-19 世紀	木綿	丈121.5 衿64.5	那覇市 歴史博物館			
26	白地緯緋桐板衣裳	18-19 世紀	桐板	丈127.0 衿60.0	那覇市 歴史博物館			
27	浅地経緯緋木綿衣裳	18-19 世紀	木綿	丈131.0 衿66.0	那覇市 歴史博物館			
28	浅地緯緋麻衣裳	18-19 世紀	麻	丈124.5 衿67.0	那覇市 歴史博物館			
29	黄緑地芭蕉衣裳	18-19 世紀	芭蕉	丈151.5 衿75.0	那覇市 歴史博物館			
30	木綿紺地経浮花織袷衣裳 (裏:木綿浅地小紋模様)	19世紀	木綿	丈112.0 衿59.5	沖縄県立博 物館・美術館			
31	木綿紺地経緯緋衣裳	20世紀 初期	木綿	丈129.0 衿59.5	沖縄県立博 物館・美術館			
32	木綿やしらみ織衣裳	20世紀 初期	木綿	丈126.0 衿59.5	沖縄県立博 物館・美術館			
33	木綿浅地格子に緋衣裳	20世紀 初期か	木綿	丈118.6 衿59.0	沖縄県立博 物館・美術館			
34	桐板白地経緯緋衣裳	19世紀	桐板	丈128.0 衿63.0	沖縄県立博 物館・美術館			
35	桐板白地格子に緯緋着物	20世紀	桐板	丈174.3 衿64.8	沖縄県立博 物館・美術館			
36	紬黄色地ムルドウッチリ 袷衣裳(和装仕立)	19世紀	絹	丈139.4 衿65.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団			
37	紬黄色地ムルドウッチリ 袷衣裳(琉装仕立)	19世紀	絹	丈151.8 衿66.6	一般財団法人 沖縄美ら島財団			
38	木綿絹紺地手皷袷衣裳	19世紀	木綿、絹	丈128.0 衿58.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団			
39	木綿手皷袷胴衣	19世紀	木綿	丈101.5 衿61.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団			
第3章 多彩な染織品の数々ー着物以外の染織品								
40	紺地紋入鶴亀牡丹文様苧麻紅 型風呂敷	19世紀	苧麻	縦104.0 横105.0	那覇市 歴史博物館			
41	波文紅型麻ティサージ	19世紀	麻	長さ70.5 幅34.0	那覇市 歴史博物館			
42	縞緯緋芭蕉木綿ティサージ	19世紀	芭蕉、 木綿	長さ58.0 幅26.0	那覇市 歴史博物館			
43	御絵図帳(7冊のうち3冊)	国宝	紙本着色	38.5×26.5	那覇市 歴史博物館	場面替		
44	苧麻紺地巴紋入松竹梅模様 チリデーウスーヤー	19世紀	苧麻	縦117.0 横49.0	沖縄県立博 物館・美術館			
45	苧麻紺地紋入松竹梅模様 チリデーウスーヤー	19世紀か	苧麻	縦78.9 横48.0	沖縄県立博 物館・美術館			
46	木綿・芭蕉緯緋ティサージ	19世紀	芭蕉、 木綿	長さ71.0 幅25.5	沖縄県立博 物館・美術館			
47	木綿紺地縫取織ティサージ	19世紀	木綿	長さ84.0 幅23.0	沖縄県立博 物館・美術館			
48	木綿白地縫取織ティサージ	19-20世紀 初期	木綿	長さ75.0 幅25.5	沖縄県立博 物館・美術館			
49	木綿赤染ティサージ	19世紀か	木綿	長さ85.5 幅31.5	沖縄県立博 物館・美術館			

No	作品名	時代	材質	サイズ	所蔵	8/10 ～25	8/27 ～9/8	9/10 ～23
50	木綿赤地縫取織ティサージ	19世紀か	木綿	長さ78.0 横23.0	沖縄県立博物館・美術館			
51	芭蕉・木綿紺地緯緋ティサージ	19世紀	芭蕉、 木綿	長さ93.0 幅27.5	沖縄県立博物館・美術館			
52	苧麻白地よろけ縞模様紅型 ティサージ	19世紀	苧麻	長さ71.0 幅35.0	沖縄県立博物館・美術館			
53	御絵図	19世紀	紙本着色	幅 25.0～28.0	沖縄県立博物館・美術館	場面替		

第4章 沖縄染織の道具

54	シーグ	1978年頃	竹、鉄	長さ14.3 径0.5	沖縄県立博物館・美術館			
55	型紙①～③とルクジュール	①～③ 19世紀／ 1978年頃	和紙／豆腐	ルクジュール： 縦5.5 横6.5 厚1.2 ①28.6×43.1 ②28.0×42.3 ③18.3×42.2	沖縄県立博物館・美術館			
56	糊袋と筒口	2000年頃	木綿、 竹、葉莢	長さ24.5 (筒口： 長さ6.7 径1.3)	沖縄県立博物館・美術館			
57	すり込み筆	2000年頃	竹、毛	①長さ18.0 ②長さ16.5 ③長さ14.2	沖縄県立博物館・美術館			

第5章 伝統を伝えて－現代の染織品

58	絹草花模様両面紅型衣裳	玉那覇有公(1936年－/ 重要無形文化財 紅型 保持者)作	2006年頃	絹	丈182.0 衿63.0	沖縄県立博物館・美術館		
59	縮緬黄色地雲鳳凰と松藤に 雀竹と牡丹衣裳	玉那覇有公(1936年－/ 重要無形文化財 紅型 保持者)作	2015年頃	絹	丈160.3 衿69.0	沖縄県立博物館・美術館		
60	芭蕉・黄色地経緯緋衣裳(復元)	平良敏子(1921年－/ 重要無形文化財 芭蕉 布 保持者)作	1996年	芭蕉	丈147.6 衿68.4	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
61	芭蕉・朱地経緯緋衣裳(復元)	平良敏子(1921年－/ 重要無形文化財 芭蕉 布 保持者)作	1996年	芭蕉	丈153.2 衿71.0	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
62	二重トッキリ(創作)	平良敏子(1921年－/ 重要無形文化財 芭蕉 布 保持者)作	2000年	芭蕉	丈150.5 衿71.2	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
63	緯段緋柳藍コーザー (創作)	平良敏子(1921年－/ 重要無形文化財 芭蕉 布 保持者)作	2000年	芭蕉	丈150.8 衿70.8	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
64	花織衣裳(マサチューセッツ 州セイラムに所在するピーボ ディ・エセックス博物館所蔵染 織品の復元製作)	宮平初子(1922年－/ 重要無形文化財 首里 の織物 保持者)作	2008年	絹	丈146.0 衿70.7	一般財団法人 沖縄美ら島財団		
65	絹紺地読谷山花織着物	与那嶺貞(1909-2003年/ 重要無形文化財 読谷 山花織 保持者)作	1991年頃	絹	丈165.0 衿64.5	沖縄県立博物館・美術館		
66	絹深淺地花倉織衣裳(ベルリン 国立民族学博物館所蔵染織品 の復元製作)	祝嶺恭子(1937年－/沖縄 県指定無形文化財 本場 首里の織物 保持者)作	2009年	絹	丈134.0 衿64.6	一般財団法人 沖縄美ら島財団		

No	作品名	時代	材質	サイズ	所蔵	8/10 ~25	8/27 ~9/8	9/10 ~23
67	縮緬灰色地雲鳳凰に松藤水辺 鳥文様衣裳	城間榮喜(1908-1992年 /沖縄県指定無形文化 財 紅型 保持者)作	1955年頃	絹	丈145.5 桁67.5	沖縄県立博 物館・美術館		
68	絹花色地雲龍文様紅型衣裳	知念績弘(1905-1993年 /沖縄県指定無形文化 財 紅型 保持者)作	1980年頃	絹	丈147.5 桁66.5	沖縄県立博 物館・美術館		
69	絹紺地芭蕉に蝶梅模様着物	藤村玲子(1939-2015年 /沖縄県指定無形文化 財 紅型 保持者)作	1983年頃か	絹	丈172.4 桁66.4	沖縄県立博 物館・美術館		
70	絹白地経緯緋に両面浮花織着 物	大城志津子(1931-1989 年/沖縄県指定無形文 化財 本場首里の織物 保持者)作	1983年	絹	丈179.0 桁62.5	沖縄県立博 物館・美術館		

・サイズの単位はcm

特別展

日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品

A Treasure Chest of Japanese and East Asian Art: Masterpieces from the Kubosō Memorial Museum of Arts, Izumi

会期＝令和元(2019)年10月5日(土)～11月24日(日)

会場＝地下1階主陳列室、2階サロン・ミューゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

特別協力＝和泉市久保惣記念美術館

大阪府にある和泉市久保惣記念美術館は昭和57年(1982)に開館した。明治期に泉南地域で盛んであった綿業で成功した久保惣株式会社の創立家の5代にわたる収集品が、会社整理を機に和泉市へ寄贈されたことに始まる。収集品は、日本を主とした東洋の古美術の名品の数々のほか、古地図や近代西洋画の名画など幅広く第一次から第六次までを数え、更には美術品や資料のほか、美術館やホールなどの施設も建設し、土地と共に公的機関へ寄附したという、日本国内では大変稀有な例である。この美術品寄贈は、現当主のメセナ活動としても、寄附金および必要な収集品を購入して美術館へ寄贈するという方法で続いている。

本展では、特に第一次久保惣コレクションといわれる初期の名品を中心に、同館を代表する美術工芸品の数々86件を一堂に紹介したものである。

構成は、第1会場で「中世絵画の名品」、「近世絵画の名品」、「中国絵画の名品」、「絵巻の名品」、「浮世絵の名品」といった絵画作品を紹介し、第2会場で「工芸の名品」、「書の名品」を紹介した。特に《万声》と《歌仙歌合》の国宝2点をはじめ、《伊勢物語絵巻》などの重要文化財23点といった、同館が所蔵する指定品のほとんどを出品することが叶った。同館のコレクションは国内外の多くの展覧会で展示される機会が多いが、それらを一堂に展示する機会は、昭和57年の同館開館を記念して開催された東京国立博物館と大阪市立美術館での名品展以来、37年ぶりとなった。

本展では各作品の見どころのほか、来歴などもあわせて、一点ずつ平易な解説を付した。また、久保家の代表者5代の紹介や、近代の美術品の移動史、コレクションの分類や内容の紹介、和泉市久保惣記念美術館の紹介などのパネルを会場内外に配置した。

会期中は、同館館長の河田昌之氏による講演のほか、継ぎ紙のワークショップを実施した。



出品目録

NO.		作品名	作者	時代	材質(員数)	法量	コレクション の種別	展示期間	
								前	後
中世絵画の名品									
1	◎	法華経巻第一 方便品第二		平安(12世紀)	紙本墨書(1巻)	27.7×540.7	第一次	○	
2		法華経巻第二 譬喻品第三および 信解品第四		平安末～ 鎌倉初期(12世紀)	紺紙金字(1巻)	25.7×705.0	第一次		○
3		時代不同歌合絵 断簡		鎌倉(13世紀)	紙本墨画(1幅)	30.3×50.5	第一次	○	
4	◎	達磨図	清拙正澄 讃	鎌倉(嘉暦元/1326)	絹本墨画(1幅)	94.6×43.4	第一次	○	
5		光忍上人絵伝 断簡		鎌倉(14世紀)	紙本著色(1幅)	33.6×54.5	第一次		○
6		光忍上人絵伝 断簡		鎌倉(14世紀)	紙本著色(1幅)	33.5×47.6	第六次		○
7	◎	山崎架橋図		鎌倉(13世紀)	絹本著色(1幅)	108.6×55.0	第一次	○	
8	◎	布袋図	惟馨周徳 筆 千林宗桂 讃	室町(16世紀)	紙本墨画(1幅)	97.4×38.5	第一次		○
9		樹上猿猴図扇面		室町(15～16世紀)	紙本金地墨画淡彩 (1幅)	18.3×48.8		○	
10		竹に葡萄図扇面		室町(15～16世紀)	紙本金地墨画淡彩 (1幅)	18.9×49.2			○
11		黄初平図扇面		室町(15～16世紀)	紙本金地墨画淡彩 (1幅)	18.9×49.2		○	
12		白描在原業平像		室町(16世紀)	紙本墨画(1幅)	26.6×32.2	第六次		○
絵巻の名品									
13	◎	駒競行幸絵巻		鎌倉(14世紀)	紙本著色(1巻)	34.4×381.7	第一次	○	
14		北野天神縁起絵巻(甲巻)		墨絵:鎌倉 (建治3/1277) 著彩:南北朝 (延文5/1360)	紙本著色 (2巻のうち)	32.2×899.8	第一次		○
15	◎	伊勢物語絵巻		鎌倉(13～14世紀)	紙本著色(1巻)	26.8×412.0	第一次	○	
16	◎	山王霊験記絵巻(上巻)		室町(14世紀)	紙本著色 (2巻のうち)	32.4×1214.4	第一次		○
	◎	山王霊験記絵巻(下巻)		室町(14世紀)	紙本著色 (2巻のうち)	32.4×1095.3	第一次		○
近世絵画の名品									
17		源氏物語扇面貼交屏風	伝 土佐光則	江戸(17世紀)	紙本著色(6曲1双)	各92.5×242.8	第六次	○	
18		伊勢物語八橋・龍田川屏風		江戸(17世紀)	紙本著色(6曲1双)	各111.4×271.1	第六次		○
19		源氏物語関屋図扇面	「伊年」印	江戸(17世紀)	紙本著色(1幅)	17.0×56.5	第六次	○	
20		源氏物語松風図	伝 俵屋宗達	江戸(17世紀)	紙本著色(1面)	25.7×38.0	第六次		○
21	◎	源氏物語手鑑(野分)	土佐光吉	江戸(慶長17/1612)	紙本著色 (80面のうち)	詞書17.8×23.7 絵19.8×26.2	第一次	○	
	◎	源氏物語手鑑(幻)	土佐光吉	江戸(慶長17/1612)	紙本著色 (80面のうち)	詞書14.7×24.0 絵19.6×26.0	第一次		○
22		新三十六歌仙図	土佐光成	江戸(17～18世紀)	絹本著色(1帖)	各31.7×23.5	第一次	○	
23		三十六歌仙画帖	住吉如慶	江戸(17世紀)	絹本著色(1帖)	各15.0×15.0	第六次		○
24		西行物語画帖	住吉具慶	江戸(17～18世紀)	絹本著色(1帖)	各13.8×12.5			○
25		富士見業平図	住吉具慶	江戸(17世紀)	絹本著色(1幅)	75.6×33.1			○

NO.	作品名	作者	時代	材質(員数)	法量	コレクション の種別	展示期間	
							前	後
26	白描源氏物語絵巻「竹河」		室町末～江戸初期 (16～17世紀)	紙本墨画(1巻)	13.0×711.5			○
27	◎ 枯木鳴鶴図	宮本武蔵	江戸(17世紀)	紙本墨画(1幅)	125.5×54.3	第一次	○	
28	麻の木図・蔡女仙図・綿の木図	松村景文	江戸(19世紀)	絹本著色(3幅対)	各104.5×36.2	第一次		○
29	乗興舟	伊藤若冲	江戸(明和4/1767)	紙本拓版(1巻)	28.1×1144.5	第六次	○	
30	大津絵 鍾馗図		江戸	紙本墨画著色 (1幅)	62.1×23.3			○
31	大津絵 藤娘図		江戸	紙本墨画著色 (1幅)	61.3×23.6			○

中国絵画の名品

32	◎ 十王経図巻		五代～北宋 (乾化元/911または 開宝4/971)	紙本著色(1巻)	29.0×128.1	第一次	○	
33	◎ 鍾馗図		元(14世紀)	絹本著色(1幅)	96.7×52.0	第一次		○
34	紅蓮鴛鴦図		元(14世紀)	絹本著色(1幅)	123.7×54.1	第一次		○

浮世絵の名品

35	三世坂東彦三郎の鷲坂左内	東洲斎写楽	江戸(寛政6/1794)	大判錦絵	34.8×23.8	第四次	○	
36	二世坂東三津五郎の石井源蔵	東洲斎写楽	江戸(寛政6/1794)	大判錦絵	33.8×23.5	第四次		○
37	七世片岡仁左衛門の高師直	勝川春英	江戸 (寛政2～文化元 /1790～1804)	大判錦絵	38.0×24.8	第四次	○	
38	横綱ノ図 東関取 小野川喜三郎	勝川春英	江戸 (寛政元～文政2 /1789～1819)	大判錦絵	32.3×22.4	第六次		○
39	手紙を読む美人	鈴木春信	江戸(18世紀)	柱絵判錦絵	53.2×11.3	第四次	○	
40	風俗四季歌仙 水無月	鈴木春信	江戸(18世紀)	中判錦絵	26.6×19.8	第四次		○
41	当時三美人	喜多川歌麿	江戸(寛政5/1793 頃)	大判錦絵	37.6×24.7	第四次	○	
42	山姥と金太郎	喜多川歌麿	江戸(18～19世紀)	大判錦絵	38.0×25.1	第四次		○
43	富嶽三十六景 凱風快晴	葛飾北斎	江戸(天保2/1831 頃)	大判錦絵	25.8×38.0	第四次	○	
44	諸国瀧廻り 下野黒髪山きりふりの滝	葛飾北斎	江戸 (天保4～8/1833～37)	大判錦絵	35.5×24.5	第六次		○
45	春興五十三駄之内 神奈川	葛飾北斎	江戸(享和4/1804)	小判錦絵	13.5×18.0	第四次	○	
46	伊勢物語 八橋図	葛飾北斎	江戸(19世紀)	大判錦絵	26.2×39.3	第六次		○
47	東海道五十三次 保永堂版(庄野 白雨)	歌川広重	江戸(天保4/1833 頃)	大判錦絵	25.5×37.7	第四次	○	
48	東海道五十三次 保永堂版初版(日本橋 朝の景)	歌川広重	江戸(天保4/1833 頃)	大判錦絵	23.5×35.8	第六次		○
49	魚づくし 鮑とさより	歌川広重	江戸 (天保年間/1830～44)	大判錦絵	25.3×36.2	第四次	○	
50	魚づくし 鯖と蟹	歌川広重	江戸 (天保年間/1830～44)	大判錦絵	24.4×36.0	第四次		○

工芸の名品

51	◎ 響銅 水瓶		奈良(8世紀)	銅製	高22.8	第一次	○	
52	青銅 軍持(布薩形)		南北朝(14世紀)	銅製	高22.3	第一次	○	
53	◎ 青銅 蓬萊図方鏡		室町(15～16世紀)	銅製	16.7×15.1	第一次	○	
54	◎ 青銅 梅樹檜垣飛鳥文鏡		鎌倉(13～14世紀)	銅製	径20.2	第一次	○	
55	尻張釜	辻 与次郎	桃山(16世紀)	鉄製	総高24.2	第一次	○	
56	備前 矢筈口水指		桃山(16～17世紀)	陶器	高16.0 口径17.8	第一次	○	

NO.		作品名	作者	時代	材質(員数)	法量	コレクション の種別	展示期間	
								前	後
57	◎	唐津 茶碗 銘「三宝」		桃山(16世紀)	陶器	高8.0 口径15.8	第一次	○	
58		黒楽 筒茶碗 銘「初霜」	長次郎	桃山(16世紀)	陶器	高9.6 口径9.2	第一次	○	
59		玳瑁天目 花鳥文碗		南宋(12～13世紀)	陶器	高5.1 口径16.2	第二次	○	
60		備前 肩衝茶入 銘「今布袋」		桃山(16～17世紀)	陶器	高7.5	第一次	○	
61		色絵 椿文中次	野々村仁清	江戸(17世紀)	陶器	総高6.3 径5.7	第一次	○	
62		織部 香合		江戸(17世紀)	陶器	総高4.8 径5.8	第一次	○	
63	◎	黄瀬戸 立鼓花入 銘「旅枕」		桃山(16世紀)	陶器	高20.9	第一次	○	
64		白釉 碗		北宋(11～12世紀)	陶器	高6.7 口径11.5	第一次	○	
65		青白磁刻花 唐草文水注		南宋(12～13世紀)	磁器	高16.3 胴径17.2	第二次	○	
66		青白磁 六花形盤		南宋(12～13世紀)	磁器	高4.6 口径19.5	第二次	○	
67	●	青磁 鳳凰耳花生 銘「万声」		南宋(12～13世紀)	磁器	高30.8	第一次	○	
68		茶葉末 瓶		清(18世紀)	磁器	高18.5	第二次	○	
69		螺鈿 楼閣山水二十四孝図 六稜形盒		明(16～17世紀)	木製漆塗螺鈿	総高12.3 径33.0	第一次	○	
70		堆朱 布袋図香合		明(14～17世紀)	木製漆塗	総高2.9 径6.5	第一次	○	
71		堆朱 柳下釣人図香合		明(14～17世紀)	木製漆塗	総高2.5 径7.0	第一次	○	
72		朱漆 薬壺		室町～桃山 (16～17世紀)	木製漆塗	総高7.3	第一次	○	
73		朱漆 葵花形天目台		室町 (15～16世紀)	木製漆塗	高7.4 径15.3	第一次	○	
74		蒔絵 桜鐘提燈文大鼓胴		桃山～江戸 (16～17世紀)	木製蒔絵	総高28.2	第二次	○	
75		蒔絵 秋草文棗		江戸(19世紀)	木製蒔絵	総高8.2	第一次	○	
76		名物裂集古鑑		江戸(文化10/1813)	(1帖)	24.2×22.2	第一次	○	

書の名品

77	●	歌仙歌合		平安(11世紀)	紙本墨書(1巻)	26.2×446.0	第一次	○	
78	◎	貫之集下 断簡(石山切)	藤原定信	平安(12世紀)	紙本墨書(1幅)	20.1×32.2	第一次	○	
79		古今和歌集巻第一 断簡 (右衛門切)		平安(12世紀)	紙本墨書(1幅)	19.3×14.5	第一次		○
80		和泉式部集 断簡	伝 藤原行成	平安(11世紀)	紙本墨書(1幅)	20.3×13.1	第六次	○	
81	◎	熊野懷紙	藤原範光	鎌倉(正治2/1200)	紙本墨書(1幅)	31.8×47.2	第一次		○
82	◎	頌古	一山一寧	鎌倉(嘉元2/1304)	紙本墨書(1幅)	31.7×66.1	第一次	○	
83	◎	法語	円爾	鎌倉(13世紀)	紙本墨書(1幅)	32.0×55.8	第一次		○
84	◎	上堂語	蘭溪道隆	鎌倉(13世紀)	紙本墨書(1幅)	29.0×65.0	第一次	○	
85		和歌 和泉国新家という所 にて	契沖	江戸(17世紀)	紙本墨書(1幅)	33.1×75.6			○
86		書状	千利休	桃山(16世紀)	紙本墨書(1幅)	28.1×39.7	第一次	○	

・前期:10月5日(土)～27日(日)、後期:10月29日(火)～11月24日(日)

・法量の単位はcm

・●:国宝 ◎:重要文化財

特別展

パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナルの世界展 The World of Sarah Bernhardt, Luminary of the Belle Époque

会期：令和元(2019)年12月7日(土)～令和2(2020)年1月31日(金)

会場：地下1階主陳列室、2階サロンミューゼ、特別陳列室

主催：渋谷区立松濤美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランス日本

特別協力：フランス／エタンプ市美術館、ピエール＝アンドレ・エレーヌ、ダニエル・ラドウィユ

日本／堺 アルフォンス・ミュシャ館(堺市立文化館)、箱根ラリック美術館、京都工芸繊維大学美術工芸資料館、リボリアンティークス

運営協力：「サラ・ベルナルの世界展」実行委員会

企画協力：株式会社燦京堂

助成：笹川日仏財団

フランスに生まれたサラ・ベルナル(1844* - 1923)は、「黄金の声」とよばれた美声や演技力によってフランス国内外で成功をおさめた女優である。彼女はフランス近代演劇史において大きな足跡を残したが、劇場経営やアーティストなど女優の枠に収まらない、幅広い活動を行った。また、若き芸術家たちの才能を見出し彼らの活動を後押ししたことで知られ、画家アルフォンス・ミュシャ(1860-1939)や宝飾デザイナーのルネ・ラリック(1860-1945)など、のちにアール・ヌーヴォーの旗手となった芸術家たちが大成する素地をつくった。

本展は日本において彼女の人生を主軸において紹介する初の試みであり、第1会場では写真や肖像画、衣装、装身具を通して、また第2会場では主にポスターを通して、その波乱万丈ながら華やかな生涯を通覧した。また、当時のパリを彩ったポスター作品の数々も展示することで、彼女が生きた時代の空気の一片もあわせて紹介した。展示点数は全154件。

会期中は、本展監修者の岡部昌幸氏(帝京大学文学部史学科教授、群馬県立近代美術館館長)による記念講演会の他、担当学芸員や外部講師による特別講座、ワークショップ、ミュージアムコンサート、ギャラリートークなどのイベントを実施し、いずれも好評をえた。

*サラの生年については諸説あるが、本展では1844年に生まれたとする説を採用した



出品目録

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
1章: サラ・ベルナルの肖像—女優、時代の寵児として							
W.& D. ダウニー	街着姿のサラ・ベルナル	1902	写真	62.0×52.0	個人蔵	16	
フェルディナン・ ミュルニエ	コメディ＝フランセーズ にデビュー時のサラ・ベル ナル	1862	写真	52.0×42.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	2	
ナポレオン・ サロニー	街着姿のサラ・ベルナル	1880	写真	40.0×30.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	14	
ナポレオン・ サロニー	街着姿のサラ・ベルナル	1880	写真	47.0×34.0	個人蔵	15	
ルイーズ・ アベマ	街着姿のサラ・ベルナル	1876	インク・紙	20.0×15.0	エタンプ市美術館	31	
ルイーズ・ アベマ	サラ・ベルナル	1891	パステル・紙	40.0×40.0	エタンプ市美術館	33	
ルイーズ・ アベマ	サラ・ベルナル	1909	パステル・紙	70.5×50.0	エタンプ市美術館	35	
ジョルジュ・ クレラン	サラ・ベルナルの肖像		鉛筆・紙	30.8×22.5	箱根ラリック美術館	27	
ウォルター・ スピンドラー	サラ・ベルナルの横顔	1890頃	パステル・紙	径45.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	41	
シャルル・ アルペール・ ヴァルトネル	《サラ・ベルナル》(バス ティアン・ルパージュの原 画に基づく)	1896	銅板・紙	66.0×53.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	38	
ルイーズ・ アベマ	メダイヨン サラ・ベルナル		石膏	31.5×28.3× 3.5	エタンプ市美術館	29	
マリー・ ベッソン	サラ・ベルナルの肖像 エミール・モローの食器 セットより	1895	磁器の皿	径24.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	40	
ルイーズ・ アベマ	扇子 サラ・ベルナル	1881	彩色、紙	閉じた状態: 27.0×3.0 開いた状態: 52.0×27.0	エタンプ市美術館	36	
ルイーズ・ アベマ	扇子 サラ・ベルナル	1881	インク・紙	閉じた状態: 27.0×3.0 開いた状態: 52.0×27.0	エタンプ市美術館	37	
ポール・エミール・ ベルトン	サラ・ベルナル	1901	リトグラフ・紙	55.0×44.0	リボリアンティークス	42	
アンリ・ド・ トゥールーズ＝ ロートレック	サラ・ベルナル(〈H/ド・ トゥールーズ＝ロート レックによる俳優13人の 肖像画〉連作から)	1898	リトグラフ・紙	51.0×44.0	個人蔵	39	
W.& D. ダウニー	『アドリエンヌ・ルクヴ ルール』でのサラ・ベル ナル	1880	写真	65.0×55.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	46	
ルイーズ・ アベマ	『アドリエンヌ・ルクヴ ルール』でのサラ・ベル ナル	1884-87	油彩・カンヴァス	25.0×20.0	エタンプ市美術館	32	
ヴァレリー	アレクサンドル・デュマ・ フィス作『異邦人』でのサ ラ・ベルナル	1876	写真	45.0×40.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	45	
ジャック・ ドゥーセ	イブニングドレス	19世紀末	絹、ビーズ、他	着丈130.0× 肩幅39.0	個人蔵	136	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
	ペクトラル(胸飾り)風首飾り	1900頃	銅、ガラス	28.0×30.0	個人蔵	102	
	『クレオパトラ』でサラ・ベルナールが身につけた胸当て	1890頃	金属、ガラス、天然石	径20.0	個人蔵	88	
	『フェドラ』でサラ・ベルナールが身につけたベルトのバックル	1906	銀メッキ	13.0×29.0	個人蔵	93	
	サラ・ベルナールが使用したシャトレースのミノディエール		銅、ルビー、ガラス、パール	9.0×8.0	個人蔵	96	
	『テオドラ』で身につけたロケットとチェーン	1880頃	銅、ガラスパール	26.0×8.0	個人蔵	91	
	サラ・ベルナールが身につけたベルトのバックル		銀メッキされた銅、カメオ	9.0×8.0	個人蔵	94	
	サラ・ベルナールが身につけたプレスレットの留め具		銀、ヴェルメイユ、真珠、ガラスパール	9.0×8.0	個人蔵	95	
	『クレオパトラ』でサラ・ベルナールが身につけたベルト	1890頃	金属、ガラス、天然石	9.0×96.0	個人蔵	90	
	『クレオパトラ』でサラ・ベルナールが身につけたヘアバンド	1890頃	金属、ガラス、天然石	7.0×57.0	個人蔵	89	
W. & D. dawson	『テオドラ』でのサラ・ベルナール	1884	写真	40.0×32.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	50	
ボワイエ	『テオドラ』でのサラ・ベルナール	1884	着色された写真	40.0×32.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	51	
ポール・ナダールに 帰属	『テオドラ』でのサラ・ベルナール	1900頃	写真	25.0×21.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	49	
フェデリック・レガメ	『ザイール』でのサラ・ベルナール	1874	リトグラフ・紙	46.0×36.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	84	
ミシェル・シモニー	『テオドラ』でのサラ・ベルナール	1902	リトグラフ、グワッシュ・紙	78.0×68.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	53	
ロシュリッツ・スタジオ	『椿姫』を演じるサラ・ベルナール	1890	写真	48.0×37.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	47	
W. & D. dawson	『フェードル』でのサラ・ベルナール	1897	写真	56.0×47.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	48	
ウジェーヌ・サミュエル・グラッセ	ジャンヌ・ダルク	1899	リトグラフ・紙	34.0×22.0	リボリアンティークス	79	
ウジェーヌ・サミュエル・グラッセ	ジャンヌ・ダルク (修正前)	1890	リトグラフ・紙	120.0×77.0	リボリアンティークス	80	
ボワイエ	『フランチェスカ・ダ・リミニ』でのサラ・ベルナール	1902	写真	55.0×40.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	86	
ロベール・キス	『イゼル』でのサラ・ベルナール	1894	サンギース・紙	33.0×27.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	85	
テオバルド・シャルトラン	『ジスモンダ』でのサラ・ベルナール	1886	銅板・ヴェラム皮紙	51.0×41.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	58	
テオバルド・シャルトラン	『ジスモンダ』でのサラ・ベルナール		油彩・鍍金した革	50.0×32.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	57	
ミュレル	『ジスモンダ』でのサラ・ベルナール	1894	ビスキュイ (素焼き)	29.0×17.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	56	
ルネ・ベルジェ	『ハムレット』でのサラ・ベルナール	1920頃	リトグラフ・紙	55.0×40.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	75	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
ルネ・ベルジェ	『トスカ』でのサラ・ベルナル	1920頃	リトグラフ・紙	52.0×37.0	個人蔵	73	
	サラ・ベルナルの巡業プログラム		冊子	31.5×23.5	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	113	
	『椿姫』プログラム表紙	1896	冊子	28.0×21.2	リボリアンティークス	114	
	サラ・ベルナル座のプログラム	1899	冊子	22.7×12.7	リボリアンティークス	115	
	舞台プログラム		冊子		ダニエル・ラドウィユ・コレクション	116	
ウィリアム・ニコルソン	サラ・ベルナル、ジュネーヴ大劇場にて	1897	リトグラフ・紙	27.3×25.7	エタンプ市美術館	72	
ティファニー	銀器セット 水差し		銀・ヴェルメイユ	40.0×25.0	個人蔵	135-3	
ティファニー	キャンドルスタンド 1対		銀・ヴェルメイユ	25.0×10.0	個人蔵	135-5	
ティファニー	銀器セット オードブル皿		銀・ヴェルメイユ	25.0×10.0	個人蔵	135-1	
ティファニー	銀器セット トレイ		銀・ヴェルメイユ	10.0×25.0×2.0	個人蔵	135-4	
ティファニー	銀器セット オードブル皿 1対		銀・ヴェルメイユ	25.0×10.0	個人蔵	135-2	
	調髪道具セット		銀		個人蔵	134	
ポール・ナダール	自宅でのサラ・ベルナル	1890	写真	71.0×58.0	個人蔵	1	
	ベル＝イル＝アン＝メール島でのサラ・ベルナル	1950頃	絵葉書	21.0×25.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	22	
	ベル＝イル＝アン＝メール島でのサラ・ベルナル	1915	写真	55.0×73.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	23	
ポール・ナダール	ビロードの服を着た街着姿のサラ・ベルナル	1894	写真	41.0×32.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	17	
	舞台姿のサラ・ベルナル		写真	名刺判、 キャビネ判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	21	
	『ハムレット』でのサラ・ベルナル		写真	キャビネ判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	76	
	街着姿のサラ・ベルナル		写真	名刺判、 キャビネ判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	13	
	棺桶の中でポーズするサラ・ベルナル		写真	名刺判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	152	
	サラ・ベルナルの家族		写真	キャビネ判、 名刺判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	3	
	コートレでのサラ・ベルナルと夫ジャック・ダマラ	1888	写真	33.0×30.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	5	
	サラ・ベルナルの近しい友人たち		写真	名刺判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	8	
W.& D.ダウニー	サラ・ベルナルと孫娘シモーヌ	1910	写真	48.0×34.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	4	
	サラ・ベルナルが演じた戯曲の作家たち		写真	名刺判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	9	
	サラ・ベルナルの恋人たち		写真	名刺判	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	10	
A. ベール	ルー・テリジェン		絵葉書	24.0×17.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	11	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
	冠	1881	銀	43.0×45.0	個人蔵	112-1	
	皿	1881	銀	径45.0	個人蔵	112-2	
2章:パトロンとしてのサラ・ベルナール—ミュシャ、ラリックとの関係							
アルフォンス・ミュシャ	『ル・ゴロワ』誌 1894年クリスマス特別号『ジスモンダ』特集 付録紙面	1894	書籍	42.0×31.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	60-1	
アルフォンス・ミュシャ	『ル・ゴロワ』誌 1894年クリスマス特別号『ジスモンダ』特集 付録紙面	1894	書籍	42.0×31.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	60-2	
アルフォンス・ミュシャ	『ル・ゴロワ』誌 1894年クリスマス特別号『ジスモンダ』特集 付録紙面	1894	書籍	52.0×57.0	個人蔵	60-3	
アルフォンス・ミュシャ	ジスモンダ	1894	リトグラフ・紙	211.0×72.5	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	55	
アルフォンス・ミュシャ	メディア	1898	リトグラフ・紙	207.5×76.5	リボリアンティークス	68	
アルフォンス・ミュシャ	ロレンザッチオ	1896	リトグラフ・紙	207.2×76.0	堺 アルフォンス・ ミュシャ館 (大阪府堺市)	64	
アルフォンス・ミュシャ	ロレンザッチオ 改訂版	1897	リトグラフ・紙	100.0×36.0	リボリアンティークス	65	
	公演用プログラム 『テオドラ』	1902	印刷・紙	32.3×24.6	箱根ラリック美術館	107	
ルネ・ラリック	制作案 テオドラ	1900- 1902頃	水彩、鉛筆、 グアッシュ・紙	28.7×22.8	箱根ラリック美術館	108	
ルネ・ラリック	ステッキ トカゲあるいはドラゴン	1895- 1897頃	金属、木	80.0×9.6× 2.2	箱根ラリック美術館	137	
アルフォンス・ミュシャ	頭飾りを着けたサラ・ベルナール	1896	鉛筆・紙	32.0×27.0	堺 アルフォンス・ ミュシャ館 (大阪府堺市)	28	
アルフォンス・ミュシャに 帰属	『メディア』のための衣装案	1898	鉛筆、水彩・紙	62.0×48.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	105	
アルフォンス・ミュシャに 帰属	『メディア』のための衣装案	1898	鉛筆・紙	35.0×29.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	104	
アルフォンス・ミュシャに 帰属	『魔女』のための衣装案	1903頃	鉛筆、水彩・紙	35.0×29.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	106	
アルフォンス・ミュシャ	サラ・ベルナール	1896	リトグラフ・紙	69.5×50.5	リボリアンティークス	130	
デザイン: アルフォンス・ ミュシャ 制作: ルネ・ラリック	舞台用冠 ユリ(エドモン・ロスタン 作『遠国の姫君』にて使用)	1895頃	金属、真珠、 ガラス	22.0×37.0× 21.5	箱根ラリック美術館	78	
	ポストカード『遠国の姫君』のサラ・ベルナール		印刷・紙	13.5×9.0	箱根ラリック美術館	77	
3章:サラ・ベルナールとその時代—ベル・エポック							
アルフォンス・ミュシャ	黄道十二宮	1897	リトグラフ・紙	79.5×60.9	リボリアンティークス	177	
アルフォンス・ミュシャ	夢想	1898	リトグラフ・紙	64.0×47.5	リボリアンティークス	178	
アルフォンス・ミュシャ	サロン・デ・サン	1897	リトグラフ・紙	63.0×44.0	リボリアンティークス	180	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
アルフォンス・ ミュシャ	JOB	1896	リトグラフ・紙	56.0×41.0	リボリアンティークス	179	
アルフォンス・ ミュシャ	羽根	1899	リトグラフ・紙	60.3×27.0	リボリアンティークス	181	
アルフォンス・ ミュシャ	ビスケット缶：ルフェーヴ ル＝ユティル	1899	金属に印刷・缶	16.0×13.0× 13.0	堺 アルフォンス・ ミュシャ館 (大阪府堺市)	176	
アルフォンス・ ミュシャ	巫女	1926	油彩・カンヴァス	99.5×90.0	堺 アルフォンス・ ミュシャ館 (大阪府堺市)	172	
テオフィール＝ アレクサンドル・ スタンラン	シャ・ノワール	1896	リトグラフ・紙	135.0×93.0	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	161	
モーリス・ レアリエ＝ デュマ	ガス燈 ベック・アウアー	1892	リトグラフ・紙	166.5×58.0	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	169	12/7- 28
ジュール・ シェレ	カルナバル 1894年	1893	リトグラフ・紙	122.5×86.5	リボリアンティークス	160	1/4- 31
ルネ・ラリック	彫像 タイス (別名「スザンヌモデル2」)	1925	無色ガラス、 プレス、フロスト	22.0×19.8 ×5.5	箱根ラリック美術館	200	12/7- 28
ルネ・ラリック	香水瓶 彼女たちの魂 ドルセー社	1913	本体：無色ガラス、 型吹き 栓：無色ガラス、 プレス、部分的に フロスト	13.0×10.2× 4.9	箱根ラリック美術館	199	1/4- 31
ルネ・ラリック	香水瓶 「レンズ豆」あるいは 「小さな花の帯」	1912	本体：無色ガラス、プ レス、黒エナメル彩 栓：無色ガラス、プ レス、黒エナメル彩	4.8×8.0× 8.0	箱根ラリック美術館	197	12/7 - 28
ルネ・ラリック	香水瓶 シダ	1912	本体：無色ガラス、 型吹き、パチネ メダルと栓：無色ガ ラス、プレス、部分 的にフロスト、パチ ネ	9.5×7.0× 3.0	箱根ラリック美術館	198	1/4- 31
ルネ・ラリック	花器 「つむじ風」あるいは 「浮き彫りされた渦巻」	1926	無色ガラス、プレス、 黒エナメル彩	20.2×19.8× 19.8	箱根ラリック美術館	201	12/7- 28
ルネ・ラリック	花器 トカゲと矢車菊	1913	色ガラス、型吹き、 部分的にフロスト	33.0×20.0× 20.0	箱根ラリック美術館	194	1/4- 31
ルネ・ラリック	脚付盃 松かさ	1900- 1902頃	オパールセントガラ ス、銀枠に吹込み	18.8×10.6× 10.6	箱根ラリック美術館	193	
パル	「ロイ・フラワー・シ ョー」 フォロイ・ベルジュ ール座	1900	リトグラフ・紙	122.0×78.5	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	164	
フェルディナン・ バック	「ロイ・フラワー・シ ョー」 フォロイ・ベルジュ ール座	1892	リトグラフ・紙	143.7× 104.1	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	163	
アンリ・ド・ トゥールーズ＝ ロートレック	イヴェット・ギルバ ール	1894	リトグラフ・紙	43.0×33.0	個人蔵	158	
アンリ・ド・ トゥールーズ＝ ロートレック	ディヴァン・ジャポ ネ	1892	リトグラフ・紙	79.0×59.0	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	153	
ピエール・ ボナール	『ラ・ルヴュ・ブラ ンシュ』 誌	1894	リトグラフ・紙	79.1×61.3	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	155	
アンリ・ド・ トゥールーズ＝ ロートレック	『ラ・ルヴュ・ブラ ンシュ』 誌	1895	リトグラフ・紙	130.0×95.0	京都工芸繊維大学 美術工芸資料館	157	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
ルネ・ラリック	ダイニング用センター ピース 火の鳥	1922	無色ガラス、プレス、 部分的にフロスト、 ブロンズ製台座	44.0×43.5× 9.6	箱根ラリック美術館	196	
ルネ・ラリック	花器 バツタ	1912	色ガラス、型吹き、 部分的にフロスト、 パチネ	27.0×24.5× 24.5	箱根ラリック美術館	195	
ルネ・ラリック	花器 スカラベ	1923	色ガラス、型吹き、 部分的にフロスト	29.0×26.0× 26.0	箱根ラリック美術館	203	
ルネ・ラリック	ブローチ 女の横顔とケシ	1900頃	金、エマイユ	2.0×4.0	箱根ラリック美術館	183	
ルネ・ラリック	ブローチ 櫛の木と女	1901- 1902頃	金、エマイユ、貝	7.0×9.8	箱根ラリック美術館	184	
ルネ・ラリック	ペンタント 女の横顔と プラタナス	1901- 1902頃	金、エマイユ	9.6×3.2	箱根ラリック美術館	185	
ルネ・ラリック	ブローチ 女の横顔とマーガレット	1897- 1998頃	金、ダイヤモンド、 バロック真珠、 エマイユ	5.8×4.8	箱根ラリック美術館	186	
ルネ・ラリック	チョーカーヘッド 流れる髪の子	1898- 1900頃	金、ダイヤモンド、 緑玉髓	5.5×7.2	箱根ラリック美術館	182	
ルネ・ラリック	プレスレット スカラベ	1912頃	色ガラス、プレス、 鏡面加工、金	一片： 2.7×1.3× 0.7	箱根ラリック美術館	202	
ルネ・ラリック	ブローチ 樹冠の中の女	1900- 1902頃	金、エマイユ	4.5×6.7	箱根ラリック美術館	187	
ルネ・ラリック	ペンダント かげろうの女	1897- 1998頃	金、エマイユ	7.5×2.8	箱根ラリック美術館	189	
ルネ・ラリック	指輪 オダマキ	1898- 1899頃	金、エマイユ	3.7×2.1× 2.3	箱根ラリック美術館	188	
ルネ・ラリック	携帯眼鏡 キク	1887- 1902頃	銀、金、 アメジスト	18.0×3.5	箱根ラリック美術館	191	
ルネ・ラリック	ポーチ 二匹のセミ		金、エマイユ	8.4×7.1	箱根ラリック美術館	190	
ルネ・ラリック	ハンドバッグ フジとクワガタソウ	1901- 1903頃	金属、布、皮革	16.1×14.3	箱根ラリック美術館	192	

4章: サラ・ベルナル伝説

アルフレッド・ クラレー	白粉「ディアファース」	1890頃	リトグラフ・紙	60.0×52.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	143	
	パズル・スーベニア	1900	絵葉書	各9.0×14.0	リボリアンティークス	103	
アフィッシュ・ カミ	アブサント酒 「テルミニウス」	1898	リトグラフ・紙	130.0× 105.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	144	
アシル・ メランドリ	サラ・ベルナルの写真パ ネル	1875頃	写真	57.0×47.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	142	
	オノト万年筆の広告	1905	リトグラフ・紙	45.0×35.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	149	
アルフォンス・ ミュシャ	ジスモンダ アメリカツアー版	1895	リトグラフ・紙	198.0×72.0	リボリアンティークス	109	
	1906年のアメリカツアー でのサラ・ベルナル		複製写真	21.0×29.0	個人蔵	110	
	サラ・ベルナル座の見取 り図	1910頃	グラビュール・紙	30.0×40.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	117	
アシル・ メランドリ	白い衣装で自刻像ととも に写る彫刻家としてのサ ラ・ベルナル	1875頃	写真	33.0×25.0	ダニエル・ラドウィ ユ・コレクション	123	

作家名	作品名	制作年	技法・材質	サイズ	所蔵	カタログ 番号	展示 期間
シャルル・マルヴィル	サラ・ベルナール作《嵐の後》 石膏原型の写真	1876	写真	34.0×28.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	124	
サラ・ベルナール	キメラとしてのサラ・ベルナール	1880頃	ブロンズ	10.0×9.4×11.5	エタンプ市美術館	125	
コル＝トック	サラ・ベルナール	1886	リトグラフ・紙	52.0×41.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	139	
アンドレ・ジル	サラ・ベルナール	1878	リトグラフ・紙	52.0×41.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	138	
アンドレ・ジル	サラ・ベルナール	1878	リトグラフ・紙	85.0×60.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	140	
シャルル・レアンドレ	サラ・ベルナール礼賛	1902	リトグラフ・紙	85.0×60.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	141	
アルフォンス・ミュシャ	「サラ・ベルナールの日」 記念冊子	1896	書籍	36.8×26.0×2.0	エタンプ市美術館	119	
ジュール・ユレ	「サラ・ベルナールの日」 メニュー	1896	書籍	33.0×24.0	リボリアンティークス	120	
ルネ・ラリック	メダルの型「サラ・ベルナール」	1896	石膏	径9.0	箱根ラリック美術館	118	
アルフォンス・ミュシャ	『ラ・プリム』誌	1897－1898	雑誌(合冊本)	25.8×19.6×1.3	堺 アルフォンス・ミュシャ館 (大阪府堺市)	131	
レオポルド・ルトランジェ	街着姿のサラ・ベルナール	1910	写真	43.0×38.0	個人蔵	20	
サラ・ベルナール	『雲の中で ある椅子の印象』	1878	書籍	28.0×21.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	126	
ジュール・ユレ	『サラ・ベルナール』	1899	書籍	29.0×22.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	128	
サラ・ベルナール	『告白』	1888	書籍	24.0×16.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	127	
ギュスターヴ・カーン他	『ラ・プリム誌』 「サラ・ベルナール」特集	1901	書籍	25.0×19.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	132	
ルイーズ・アバマ	サラ・ベルナール	1921	油彩・カンヴァス	40.0×50.0	エタンプ市美術館	34	
マルセル・ヴェルテ	死の床のサラ・ベルナール	1923	インク・紙	29.0×30.0	ダニエル・ラドウィユ・コレクション	44	

・展示期間の欄に記載のない作品は通期展示
・サイズの単位はcm

2020 松濤美術館公募展

会期＝令和2(2020)年2月12日(水)～24日(月・休)

会場＝地下1階主陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

松濤美術館公募展は、渋谷区に在住、在勤および在学の方々の創作活動の活性化を目的として開館当初から始められたもので、今回で37回目を迎えた。毎回多くのご応募をいただき、作品発表の場として着実に定着してきた。

本年も学生を含め最年少16歳から最年長86歳まで幅広い年齢層の方々が多数応募した。近年は水彩、油彩といったオーソドックスなものをはじめミクストメディアや画面に隆起のある作品などの応募も増え、素材や表現方法の多様性に時代の流れを感じさせられる。

応募作品は、3名の審査委員により厳正な審査を行い、その中から下記の通り選出し入選作品とした。これらの入選作品は全て展覧会に出陳された。そのうち下記の通り13点の受賞作品が選ばれ、贈呈式にて表彰された。なお、奨励賞受賞作品のうち1点が応募条件を満たしていないことが判明したため、入選及び賞を取り消した。その結果、奨励賞受賞作品は定数より1点少ない9点となっている。

審査状況

応募作品総数 127点

入選作品総数 61点

審査委員

猿渡 紀代子(審査委員長・美術史家)

笠井 誠一(画家)

田淵 俊夫(日本画家)

[学生優秀賞]

和田玲美 《夢列車》

[奨励賞]

酒井七美 《道玄坂 雪しぐれ》

近藤文子 《コム・オンボ神殿(エジプト)》

大矢由美子 《未来を想う》

吉田珠子 《カレル橋新秋》

大床幸雄 《桜と青空》

大野圭子 《ある日》

山下節夫 《早暁の佐倉機関区》

蔭山茂昭 《ニュートンの叙述》

田中章夫 《ThingsIV》

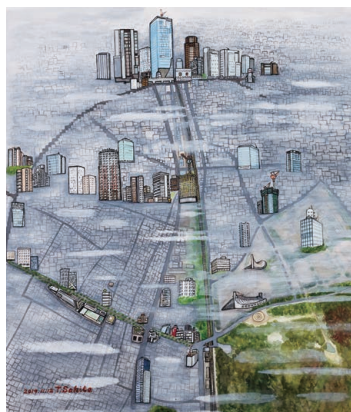
[松濤美術館賞]

崎田忠男 《ニョキ、ニョキッと!》

[優秀賞]

福島美織 《紅はおずき》

成清一生 《追想》



松濤美術館賞
崎田忠男 《ニョキ、ニョキッと!》



サロン展

「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」

Murata Katsushiro : A Sculptor Joins the Wild Bird Society of Japan

会期＝令和2(2020)年2月12日(水)～3月15日(日)

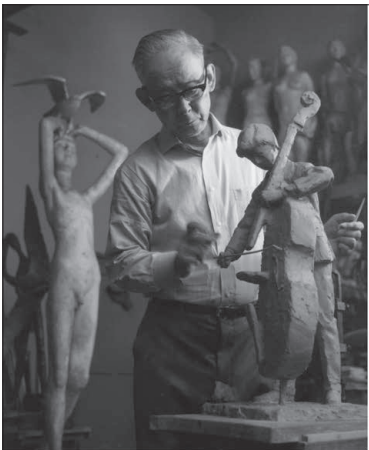
会場＝2階サロンミュージーゼ、特別陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

村田勝四郎(1901/明治34～1989/平成元年)は渋谷区元代々木町にアトリエを構え、1985(昭和60)年には渋谷区立松濤美術館に作品48点を寄贈し、受贈記念特別陳列が開催されるなど、渋谷とのゆかりの深い彫刻家。大阪に生まれ、東京美術学校(現東京藝術大学)の彫刻科塑造部に学び、北村西望や朝倉文夫の指導を受け、帝展で特選受賞を重ねるなど、彫刻家としての順調なスタートを切るが、その後に先輩であった安藤照や堀江尚志らとともに「塊人社」の結成に参加し、独自の活動の道を模索した。戦前はこの塊人社展ほか帝展、新文展、戦後はおもに新制作協会展に出展を続けた。

一方で、1934(昭和9)年に思想家の中西悟堂が「日本野鳥の会」を創立すると、村田は翌年に入会し、中西と親交を深めていく。中西はやがて戦後の急激な日本の経済発展に対し、自然保護・共生の思想を打ち出すが、こうした思想への共鳴が、村田が晩年さかんに手がけた、少年・少女が鳥たちと親和する彫刻主題につながった可能性もある。本展では、近年、日本野鳥の会から村田のスケッチ作品が再発見されたことを契機にはじまった調査活動をもとに、知られざる村田と同会の関係を掘り下げた。所蔵作品を中心に彫刻29点を展示し、初期から晩年までの彫刻家としての活動の軌跡をたどるとともに、村田が文章や挿絵を寄せていた会誌『野鳥』など、日本野鳥の会からの出品も加えて資料約40件をあわせて紹介した。

村田勝四郎と日本野鳥の会の交流、「塊人社」との関係などに関する新知見を含むエッセイや美術館所蔵の全彫刻作品の画像を掲載した図録を発行した。



サロン展
彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会
Murata Katsushiro : A Sculptor Joins the Wild Bird Society of Japan
2020.2.12wed - 2.24mon / 2.29sat - 3.15sun

入館料無料 Admission Free

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART
〒150-0046 渋谷区松濤2-14-14
Tel.03-3465-7421, MurataKatsushiro@shoto-museum.jp

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休 日：2020年2月17日(月)・25日(火)～28日(金)・3月22日(月)・29日(日)
※ 2階サロンミュージーゼ・特別陳列室
※ 2階ギャラリー
※ 1階展示室
※ 1階受付・情報センター
※ 1階トイレ
※ 1階エレベーター
※ 1階階段
※ 1階廊下
※ 1階ロビー
※ 1階エントランス
※ 1階出口



出品目録

作家名	作品名	制作年	材質・技法	所蔵
村田勝四郎	半坐少女	1938（1987年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	トルソ	1943	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	視線	1943（1987年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	老人	1937	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	壮ちゃんの首	1935	テラコッタ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	手	1954	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	T嬢座像	1957（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	肥った少女	1958（1985年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	顔を膝にのせて	1958（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	牧神の午后	1958（1985年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	カワウ	1935	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	牛	1937頃（1985年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	コミミズク	1973	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	コリー	1960	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ダックスフンド	1963	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ダックスフンド	1963	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ダックスフンド	1963（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ダックスフンド	1963（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	サギと少女	1965（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	雉を持つ少年	1972	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	雉を持つ兄弟	1972（1986年度鑄造）	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ささやき	1973	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	鳩と少年	1973	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	鳥翁 中西悟堂	1968	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	白鳥と少年	1970	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	雉と少年	1973	ブロンズ	渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	「翼を広げたトキと少年」スケッチ	1977頃	ペン、墨、紙	公益財団法人日本野鳥の会
村田勝四郎	日本野鳥の会シンボルマーク	1959		公益財団法人日本野鳥の会
	『野鳥』（日本野鳥の会会誌）	1935－1978		公益財団法人日本野鳥の会
	オオタ自動車工業「オオタ・PK」資料	1954頃		渋谷区立松濤美術館
村田勝四郎	ウズラ	1950～60年代		個人蔵

※1階エレベータ前ロビーおよび階段ニッチにも以下の村田勝四郎作品を展示。

1階エレベータ前ロビー:《翼を広げたトキと少年》1977年 石膏 渋谷区立松濤美術館

階段ニッチ:《語らい》1973（1986年度鑄造）ブロンズ 渋谷区立松濤美術館

第38回 渋谷区小中学生絵画展

会期＝令和2(2020)年2月29日(土)～3月8日(日)

会場＝地下1階主陳列室

主催＝渋谷区立松濤美術館

本展では、渋谷区内にある19校の小学校、10校の中学校の児童生徒が授業などで制作し、その中から選ばれた、194点の絵画作品を展示した。クレヨン、水彩、版画をはじめ、ときには画面にさまざまなものを貼りつけて制作された作品たちが一堂に会した。これらは子供たちの日々の気づきや考えから生まれ、絵画を通して世界に触れることの喜びにあふれたものであった。また、創意工夫をこらした実験精神とアイデアの積みかさねが、その表現をいっそう魅力的にしていることも、見逃せない特質だったといえる。

出品作194点の内訳は、小学校から154点、中学校より40点であった。この中から11点の優秀作品を選出し、うち1点を図録の表紙、1点をポスター掲載作とし、またチラシ表面に1点、裏面に6点を掲載した。このほか2点をそれぞれしぶや区ニュース、CITY NEWSの3月1日号に掲載した。

なお来年度以降、小中学生絵画展は会場を別の場所に移して開催されることとなり、当館主体での開催も今年でひと区切りとなった。



ポスター



チラシ表



チラシ裏



図録

Ⅲ 出版

令和元（2019）年度



《カタログ》

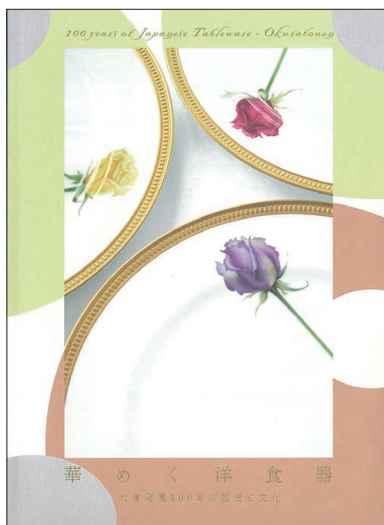
特別展「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」

27.0×19.8cm

全216p、カラー図版170p

- ・石上阿希「浮世絵は何をうつしたか」（対英訳）
- ・山本ゆかり「春画の女性」（対英訳）
- ・加茂瑞穂「浮世絵にみる装い」（対英訳）
- ・作品解説（図版ページ）
- ・作者解説
- ・主要参考文献
- ・出品目録（対英訳）

* 各章解説の英訳あり



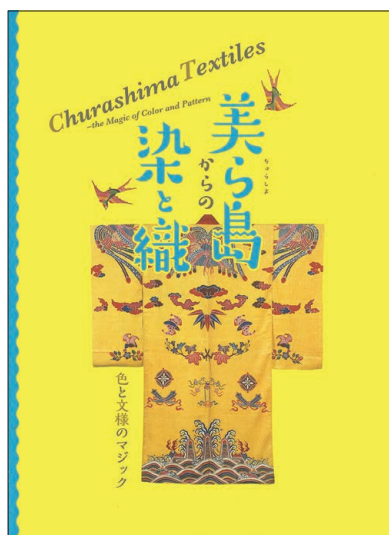
《カタログ》

特別展「華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化」

24.0×17.7cm

全288p、カラー図版192p

- ・黒澤学「大倉陶園の100年」
- ・山口敦子「園主大倉和親一大倉陶園に懸けた想い」
- ・立花昭「大倉陶園で製造された初期陶影について」
- ・大平奈緒子「大倉陶園と芸術家たち」
- ・伊藤京子「錦絵と画譜にみる大倉孫兵衛の美意識」
- ・コラム（1 山口「大倉孫兵衛に捧げられた初窯製品」、2 伊藤「出版業にみる大倉孫兵衛の美意識」、3～4 西「日本洋食器の黎明期—精磁会社を中心として」「大倉父子の挑戦—森村組グループ会社と大倉陶園」、5 立花「博覧会・展覧会への参加」、6 大平「大倉陶園の礎を築いた日野厚」、7 伊藤「もてなしの洋食器—溥儀を迎えたディナーセット」、8 山口「洋風文化と銀座—資生堂アイスクリームパーラー」、9 立花「創業地、東京・蒲田」、10～11 大平「初代工場長岩田恒三郎と『陶苑懷古』」「日本ならではの洋食器デザインを求めて—日本趣味応用図案研究会」、12～14 立花「戦時下の大倉陶園」「大倉陶園の陶彫」「大倉陶園、横浜・戸塚へ」、15 山口「百木家と大倉家—百木三郎、百木春夫の足跡」）
- ・大倉陶園の裏印
- ・大倉陶園の技法
- ・大倉陶園関連年表
- ・作品リスト
- ・主要参考文献



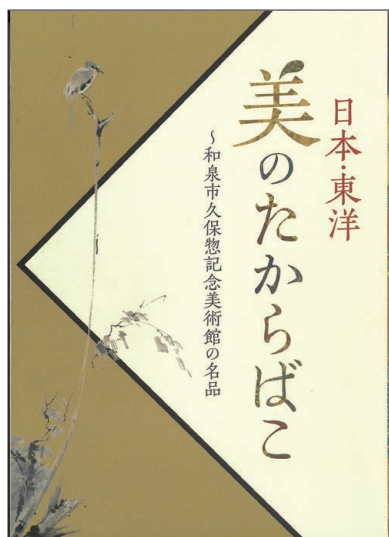
《カタログ》

特別展「美ら島からの染と織－色と文様のマジック」

27.0×19.8cm

全128p、カラー図版79p

- ・西岡康宏「本展に寄せて」（対英訳）
- ・與那嶺一子「沖縄の染色」
- ・上江洲安亨「色材が語る琉球染織史～琉球関係文化財の光学調査と文献史料の比較考察～」
- ・山田葉子「那覇市歴史博物館所蔵「国宝 琉球国王尚家関係資料」の紅型資料について」
- ・宮城奈々「沖縄の織物―戦後復興から現代へ」
- ・作品解説
- ・用語解説（対英訳）
- ・作品リスト（対英訳）
- * 各章解説の英訳あり



《カタログ》

特別展「日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品」

27.0×19.8cm

全160p、カラー図版120p

- ・久保恒彦「ごあいさつ」（対英訳）
- ・西岡康宏「展覧会によせて」（対英訳）
- ・河田昌之「久保惣太郎と和泉市久保惣記念美術館」（対英訳）
- ・橋詰文之「久保惣コレクションについて」（対英訳）
- ・作品解説（図版ページ）
- ・作家解説
- ・年表
- ・主要参考文献
- ・作品リスト（対英訳）
- * 各章解説の英訳あり



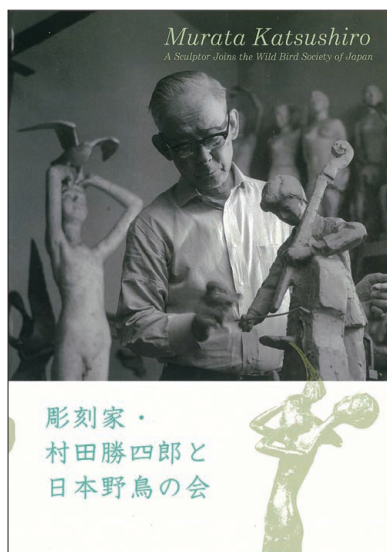
《カタログ》

特別展「パリ世紀末 ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界」

24.5cm×16.7cm

全256p、カラー図版203p

- ・ピエール＝アンドレ・エレーヌ「はじめに」
- ・岡部昌幸「サラ・ベルナールの芸術サロンとベル・エポック―その内面と表象」
- ・白田由樹「『美しき時代』の詩神―サラ・ベルナールの舞台人生と大衆の記憶」
- ・シルヴァン・デュシェーヌ「エタンプ市美術館―歴史、コレクション、そしてアベマー」
- ・西川奈津美「サラ・ベルナールとアルフォンス・ミュシャ―演劇ポスターからみる姿―堺市の所蔵コレクションから」
- ・西 美弥子「パトロンとしてのサラ・ベルナール」
- ・浦川佳代子「新たな時代を築いた二人、サラ・ベルナールとルネ・ラリック」
- ・並木誠士「ロートレックと京都高等工芸学校」
- ・並木誠士「1900年のパリ万国博覧会と日本」
- ・関連年表
- ・主要参考文献



《カタログ》

サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」

25.7cm×18.3cm

全32p、カラー図版16p

- ・平泉千枝「彫刻家・村田勝四郎について」
- ・木原天彦「村田勝四郎と塊人社」
- ・平泉千枝「村田勝四郎と日本野鳥の会」
- ・木原天彦「村田勝四郎のモニュメント事業」
- ・村田勝四郎 略年表
- ・渋谷区立松濤美術館所蔵 村田勝四郎 作品リスト

IV 教育普及

1 講演会

各企画展ではほぼ1回、展覧内容に関連した講演会を開催している。専門家による企画展出品作品の歴史的背景や芸術上の展望などが語られ、参加者からの質問も活発である。

令和元(2019)年度実績

期日	テーマ	講師(経歴は当時のもの)	参加者
4月14日(日) 午後2時から	錦絵に描かれた女たち、描かれなかった女たち	石上阿希(本展監修者、国際日本文化研究センター特任助教)	97人
7月14日(日) 午後3時30分から	わたしと大倉陶園－大倉陶園デザイナー・百木春夫との関わり	三國清三(オテル・ドゥ・ミクニオーナーシェフ)	94人
9月8日(日) 午後2時から	沖縄の染織	與那嶺一子(沖縄県立博物館・美術館主任学芸員)	100人
10月13日(日) 午後3時から	久保惣太郎と和泉市久保惣記念美術館－収集品より	河田昌之(和泉市久保惣記念美術館館長)	67人
12月21日(土) 午後2時から	新しい芸術と社会を切り拓いた女性－サラ・ベルナールの華麗な世界	岡部昌幸(本展監修者、帝京大学文学部史学科教授、群馬県立近代美術館館長)	89人

2 美術教室

区内在住、在勤、在学者を対象に絵画等の基本を一通り学びたい人のために開講している。

令和元(2019)年度実績

教室	講師	期間・回数	曜日・時間	参加者 (応募者)
油絵・アクリル画教室	原良介	6月20日～7月18日・5回	木曜日・午後2時～4時	17人(21)
パステル教室	一の瀬洋	6月21日～7月19日・5回	金曜日・午後2時～4時	17人(19)
小中学生の工作教室	大小田万侑子・ 玉井あや	8月20日、21日・2回	火、水曜日・午後2時～4時	37人(50)
水彩画教室A	奈良峰博	10月17日～11月14日・5回	木曜日・午後2時～4時	16人(19)
水彩画教室B	武政朋子	10月18日～11月15日・5回	金曜日・午後6時～8時	13人(14)

3 コンサート

令和元(2019)年度実績

実施日	コンサート名	出演者	演奏曲	参加 人数
5月11日(土) 午後1時～2時／ 午後3時～4時	和妻～日本の伝統手品	北海翼(手品師)	和妻の実演	74人
9月7日(土) 午後2時～3時半	沖縄の伝統音楽と舞踊	島口隆弘(沖縄三線演奏家) クイチャーパラダイスの社中2名(踊り担当)	1 豊年ぬあやぐ 2 舞踊・総掛(かしき) など	79人
12月22日(日) 午後4時～5時	ミュージアムコンサート「サラ・ベルナールに捧ぐ」	ソプラノ:鈴木雅美 ピアノ演奏:原田園美	ビゼー作曲 別れを告げるアラビアの女主人 ほか	72人

4 ギャラリートーク

令和元(2019)年度実績

実施日	展覧会名	参加者
4月20日(土)	女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし	27人
5月12日(日)	〃	49人
5月17日(金)	〃	73人
6月21日(金)	華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化	31人
7月7日(日)	〃	21人
7月20日(土)	〃	32人
8月17日(土)	美ら島からの染と織－色と文様のマジック	29人
9月1日(日)	〃	16人
9月13日(金)	〃	28人
10月20日(日)	日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品	16人
11月1日(金)	〃	42人
11月9日(土)	〃	28人
11月17日(日)	〃	13人
11月20日(水)	〃	8人
12月13日(金)	パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展	35人
1月5日(日)	〃	38人
1月18日(土)	〃	38人
2月22日(土)	彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会	9人

5 美術館見学会＆ワークショップ

令和元(2019)年度実績

実施日	題名	講師	内容	参加者
8月15日(木)午後2時から	美ら島からの染と織展 親子見学会&ワークショップ	当館学芸員	マスキングテープで琉球の織物デザインはがきを作ろう！	18人
8月16日(金)午後2時から	〃	〃	〃	8人

6 展覧会関連イベント

令和元(2019)年度実績

実施日	イベント名	出演者	参加者
4月28日(日) 午後11時～	紋切りあそび	当館学芸員	23人
6月15日(土) 午後2時～	連続特別講座① 大倉陶園社員(社 史研究者)が語る大倉陶園の歴史 とその技術	黒澤学(株式会社大倉陶園)	42人
6月29日(土) 午後1時～、 2時～、 3時～	大倉陶園ペインターによる出張実 演	中嶋祐紀(株式会社大倉陶園ペインター)	午後1時 31人、 午後2時 59人、 午後3時 53人
6月30日(日) 午後2時～	連続特別講座② 大倉陶園の特徴 と魅力—新発見の資料もふまえて	大平奈緒子(本展担当学芸員)	39人
7月6日(土) 午前11時～、 午後3時～	大倉陶園のうつわでコーヒープレ イク	坪内岩男(株式会社大倉陶園)	午前11時 19人 午後3時 21人
7月13日(土) 午後2時～	連続特別講座③ 日本洋食器の アール・デコ—大倉陶園、ノリタ ケなど	高波真知子(当館副館長)	63人
8月10日(土) 午後2時～	特別ギャラリートーク	上江洲安亨(一般財団法人沖縄美ら島財団 首里城公園管理部首里城事業課副参事)	50人
8月15日(木) 午後2時～	親子美術見学会&ワークショップ マスキングテープで琉球の織物デ ザインはがきをつくろう!	当館学芸員	18人
8月16日(金) 午後2時～			8人
10月27日(日) 午前11時～	千代紙で継ぎ紙をつくろう	当館学芸員	29人
1月11日(土) 午後2時～	特別講座① メディアの寵児・パト ロンとしてのサラ・ベルナール	西美弥子(本展担当学芸員)	61人
1月25日(土) 午前11時～、 午後2時～	feltico すかし百合のプローチづく りワークショップ	feltico 麻生順子(羊毛花作家)	午前11時 15人 午後2時 15人
1月26日(日) 午後2時～	特別講座② 19世紀フランスにお ける社会生活と創作世界の異性装	新實五穂(お茶の水女子大学基幹研究院人 文科学系准教授)	80人

7 建築ツアー

白井晟一設計の当館内を建築に関する説明を聞きながら見学します。

令和元(2019)年度実績

実施日:時間は各日午後6時～6時40分頃	参加者
4月12日(金)	11名
4月19日(金)	5名
4月26日(金)	1名
5月 3日(金・祝)	32名
5月10日(金)	12名
5月17日(金)	4名
5月24日(金)	28名
6月14日(金)	6名
6月21日(金)	18名
6月28日(金)	7名
7月 5日(金)	10名
7月12日(金)	7名
7月19日(金)	15名
7月26日(金)	20名
8月16日(金)	20名
8月23日(金)	1名
8月30日(金)	9名
9月 6日(金)	7名
9月13日(金)	13名
9月20日(金)	15名
10月11日(金)	0名
10月18日(金)	8名
10月25日(金)	5名
11月 1日(金)	9名
11月 8日(金)	9名
11月15日(金)	9名
11月22日(金)	9名
12月13日(金)	18名
12月20日(金)	7名
12月27日(金)	12名
1月10日(金)	22名
1月17日(金)	22名
1月24日(金)	25名
1月31日(金)	42名
2月16日(日)*	1名

註: *印は実施時間が午後4時～4時40分

V 入館状況

令和元(2019)年度実績

展 覧 会 名	期 間	入館者数	1日平均 入館者数
女・おんな・オンナ ～浮世絵にみる女のくらし	2019(平成31)年4月6日(土)～ (令和元)5月26日(日) 43日間	9,607人	223人
華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化	2019(令和元)年6月8日(土)～ 7月28日(日) 44日間	10,404人	236人
美ら島からの染と織－色と文様のマジック	2019(令和元)年8月10日(土)～ 9月23日(月・祝) 39日間	8,286人	212人
日本・東洋 美のたからばこ ～和泉市久保惣記念美術館の名品	2019(令和元)年10月5日(土)～ 11月24日(日) 43日間 ※台風19号のため1日半臨時休館	7,846人	182人
パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展	2019(令和元)年12月7日(土)～ 2020(令和2)年1月31日(金) 43日間	12,905人	300人
2020 松壽美術館公募展	2020(令和2)年2月12日(水)～ 2月24日(月・休) 12日間	2,871人	110人
第38回 渋谷区小中学生絵画展	2020(令和2)年2月29日(土)～ 3月8日(日) 8日間		
サロン展 彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会	前期 2020(令和2)年2月12日(水)～ 2月24日(月・休) 12日間 後期 2020(令和2)年2月29日(土)～ 3月15日(日) 14日間		

令和元(2019)年度実績

4月6日(土)	特別展「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」始まる
4月14日(日)	講演会:「錦絵に描かれた女たち、描かれなかった女たち」 講師:石上阿希(本展監修者、国際日本文化研究センター特任助教)
5月15日(水)	理事会
5月26日(日)	特別展「女・おんな・オンナ～浮世絵にみる女のくらし」終了
5月30日(木)	評議員会
6月8日(土)	特別展「華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化」始まる
7月14日(日)	講演会:「わたしと大倉陶園－大倉陶園デザイナー・百木春夫との関わり」 講師:三國清三(オテル・ドゥ・ミクニオーナーシェフ)
7月28日(日)	特別展「華めく洋食器 大倉陶園100年の歴史と文化」終了
8月10日(土)	特別展「美ら島からの染と織－色と文様のマジック」始まる
9月8日(日)	講演会:「沖縄の染織」 講師:與那嶺一子(沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員)
9月23日(月・祝)	特別展「美ら島からの染と織－色と文様のマジック」終了
10月5日(土)	特別展「日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品」始まる
10月12日(土)	台風(第19号 令和元年度東日本台風)により、終日臨時休館(翌13日正午まで)
10月13日(日)	講演会:「久保惣太郎と和泉市久保惣記念美術館－収集品より」 講師:河田昌之(和泉市久保惣記念美術館館長)
11月24日(日)	特別展「日本・東洋 美のたからばこ～和泉市久保惣記念美術館の名品」終了
12月7日(土)	特別展「パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展」始まる
12月21日(土)	講演会:「新しい芸術と社会を切り拓いた女性－サラ・ベルナールの華麗な世界」 講師:岡部昌幸(本展監修者、帝京大学文学部史学科教授、群馬県立近代美術館館長)
1月31日(金)	特別展「パリ世紀末ベル・エポックに咲いた華 サラ・ベルナールの世界展」終了
2月12日(水)	「2020 松濤美術館公募展」始まる サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」(前期)始まる
2月12日(水)	理事会
2月24日(月・休)	「2020 松濤美術館公募展」終了 サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」(前期)終了
2月26日(水)	評議員会
2月29日(土)	「第38回 渋谷区小中学生絵画展」始まる サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」(後期)始まる
3月8日(日)	「第38回 渋谷区小中学生絵画展」終了
3月15日(日)	サロン展「彫刻家・村田勝四郎と日本野鳥の会」(後期)終了

VII 組織

公益財団法人渋谷区美術振興財団

当館は、渋谷区の委託を受けて、公益財団法人渋谷区美術振興財団が運営している。企画展等に関わる諸事業は、機敏でしかも柔軟な経理活動が伴わなければ効果的に推進することが難しいため、行政の公会計制度から独立した財団の財務会計によって計画的な事業を推進することで区民文化の振興を目指しているのである。財団は区の出資により設立され、独自の組織と資産をもち、開館時間、休館日、入館料等の美術館の基本的利用条件の決定を除き、施設の維持管理、展観事業及び文化活動の全般にわたって渋谷区から委託されている。



※令和2年3月31日現在

VIII 利用案内

開館時間

〔特別展〕

午前10時～午後6時

＊金曜日は午後8時まで開館

＊最終入館は閉館30分前まで

〔公募展・渋谷区小中学生絵画展・サロン展〕

午前9時～午後5時

＊最終入館は閉館30分前まで

休館日

毎週月曜日（祝日は除く）

国民の祝日の翌日（土・日曜日は除く）

年末年始（12月29日～1月3日）

展示替期間

入館料

展覧会毎に異なります。

＊団体（10名以上）のお客様が同時に入館される場合、2割引となります。

＊障がい者とその付添の方各1名は無料です。入館の際に障がい者手帳等をご提示ください。

＊金曜日に入館される渋谷区民の方は無料です。入館の際に住所のわかるものをご提示ください。

＊土・日曜日、休日、夏休み期間中、小中学生は無料です。

案内図



主要交通機関

京王井の頭線

ハチ公バス

JR山手線・東京メトロ・東急電鉄

＊駐車場はありません。

神泉駅下車 徒歩5分

渋谷駅より「丘を越えてルート（上原・富ヶ谷ルート）」にて

「松濤美術館入口」下車 徒歩5分

渋谷駅ハチ公口下車 徒歩15分